

令和6年度 東京海洋大学修学支援調査

調査結果報告書

◆調査実施期間
令和6年4月～9月

◆有効回答件数
900件

国立大学法人 東京海洋大学

目次

- ま え が き
- 調査結果の表示について

I 基本的事項について

1-1. 回答者の所属学科、課程または専攻	1
1-2. 回答者の学年	2
1-3. 回答者の性別	2
1-4. 外国人留学生であるか	2

II. 入学について

2-1. 東京海洋大学入学への志望度合い	3
2-2. 入学の動機	3
2-3. 学部卒業後の大学院への進学又は就職希望について	3

III. 修学関係について

3-1. 大学の教育への満足度	4
(SQ) 大学の教育に不満な理由	4
3-2. 大学の研究指導への満足度	5
(SQ) 大学の研究指導に不満な理由	5
3-3. 授業の出席頻度	6
3-4. 授業に欠席する理由	6
3-5. 学習やレポート作成等に費やす時間	7
3-6. 授業内容が理解できなかった場合の対処	8
3-7. 学内で学習する場として必要な条件	8
3-8. 東京海洋大学の学位授与方針が、入学後現在までに身についたと思うか	8

IV. 学生生活について

4-1. 全体としての学生生活の満足度	9
4-2. 学生生活における大学の対応や支援についての満足度	9
4-3. 大学の窓口対応について	10
4-4. 大学での友人関係は良いと思うか	10
4-5. 自分の1日の生活リズムは規則正しいと思うか	10
4-6. 現在の大学生活で最も大切にしている事	11
4-7. 通信機器（スマートフォンなど）をメールやインターネットで使用する時間	11

V. 通学・居住について

5-1. 回答者が現在住んでいる住居の区分	12
5-2. 賃料から考えての住居の住み心地	12
(SQ) 住居に不満を感じている点	12
5-3. 学生寮について	13

VI. アルバイトについて

6-1. 過去1年間のアルバイト経験	14
6-2. 経験したアルバイトの種類	14
6-3. 1週間のアルバイト従事時間	14

VII. 健康・悩みなどについて

7-1. 自分の健康状況についての認識	15
7-2. 現在抱えている悩みや不安	15
7-3. 悩みや不安が生じたときの相談相手	15
7-4. 制度の利用状況	16

VIII. 経済状況について

8-1. 修学を金銭的に支えてくれる主な人	17
8-2. 修学を金銭的に支えてくれる人の職業	17
8-3. 修学を金銭的に支えてくれる人の年収	18
8-4. 収入及び支出の平均額（月額）	18
8-5. 家庭からの仕送り・援助と修学の関係	19
8-6. 昨年と比べ、家庭からの仕送り・援助額に変化があったか	19

IX. 大学の経済支援について

9-1. 大学で実施している「授業料免除」の申請について	20
9-2. 日本学生支援機構または他の団体から奨学金について	20
9-3. 受けている奨学金	20
9-4. 奨学金の月額	21

X. 課外活動について

10-1. 所属している課外活動団体	22
10-2. サークル等加入の理由・動機	22
10-3. サークル等の1週間あたりの活動時間	23
10-4. サークル等に加入していない理由	23

XI. 進路・就職について

11-1. 卒業後に希望する進路	24
11-2. 将来、就職を希望する業種	24
11-3. 就職先を選ぶ際、重視する事	25
11-4. 就職担当窓口を利用しているか、また、そこからの情報提供は十分なものか	26
11-5. 大学外での資格取得等のための通学（ダブルスクール）について	26

XII. 大学への要望について

12-1. 大学の授業に対する要望や意見	27
12-2. 大学の教育や学生生活に対する要望や意見	27

前回(R3年度)調査との比較

表とグラフの例	28
1-3. 回答者の性別	29
2-1. 東京海洋大学入学への志望度合い	29
3-1. 大学の教育への満足度	30
3-2. 大学の研究指導への満足度	30
3-3. 授業の出席頻度	31
3-4. 授業に欠席する理由	31
3-6. 授業内容が理解できなかった場合の対処	32
4-3. 大学の窓口対応について	32
4-6. 現在の大学生活で最も大切にしている事	33
5-1. 回答者が現在住んでいる住居の区分	33
5-3. 学生寮について	34
6-1. 過去1年間のアルバイト経験	34
6-3. 1週間のアルバイト従事時間	35
8-5. 家庭からの仕送り・援助と修学の関係	35
9-1. 大学で実施している「授業料免除」の申請について	36
9-2. 日本学生支援機構または他の団体から奨学金について	36
9-4. 奨学金の月額	36
10-1. 所属している課外活動団体	37
10-2. サークル等加入の理由・動機	37
11-1. 卒業後に希望する進路	38
11-3. 就職先を選ぶ際、重視する事	39
12-1. 大学の授業に対しての要望や意見	40
12-2. 大学の教育や学生生活に対しての要望や意見	41

まえがき

東京海洋大学修学支援調査は、アンケートにより本学学生の皆さんの学習、生活、居住環境、課外活動等の状況や大学への要望を把握し、修学環境や学生支援の充実および改善に役立てるための取り組みを構築する上での重要な情報を収集することを目的としています。体系的に調査データを蓄積し、分析することにより、学生や大学が抱える課題を明らかにし大学側の対応策を考えることが可能になります。

本学では3年ごとに修学支援調査を行っておりますが、前回の調査からホームページを利用して質問フォームに入力して頂く形式に変更し、日本語および英語でアンケートを実施しています。これは、学生がいつでもどこからでも回答できるようにすることの他、今まで以上に留学生の状況や要望などを正しく把握することを目指したものです。コロナ禍で授業評価をはじめ、様々なアンケートでオンラインでの入力を行う方式に変更され、回答にも慣れてきたところではないかと思えます。回収率は必ずしも高いとは言えませんが、多くの学生の皆さんのご協力のおかげで、学生生活の様々な場面での実態や現状を把握する上での貴重な情報を得ることができたものと考えています。データの解析をより詳細に行うことで、大学の教育や環境の改善に努めていきたいと思えます。別の視点でデータを見ると、別の解釈ができることがあるかもしれません。そのような意見は是非、大学にお寄せください。

今回の調査実施にあたり、調査を担当された学生支援委員会学生広報・修学支援調査小委員会の委員ならびに学務部の事務担当者、ご協力をいただいた先生方、調査の趣旨を理解して回答に協力してくれた学生の皆さんなど、関係者のご協力とご尽力に心から感謝いたします。

令和7年2月

学生支援委員会委員長

理事・副学長(教育・国際担当) 舞田 正志

委員会の構成メンバー

令和5年度学生広報・修学支援調査小委員会

(主査)工藤貴史、中川雄二、高橋美穂、渡部大輔、小野耕志

令和6年度学生広報・修学支援調査小委員会

(主査)工藤貴史、茂木康平、高橋美穂、上野公彦、笹田慶太

調査結果の表示について

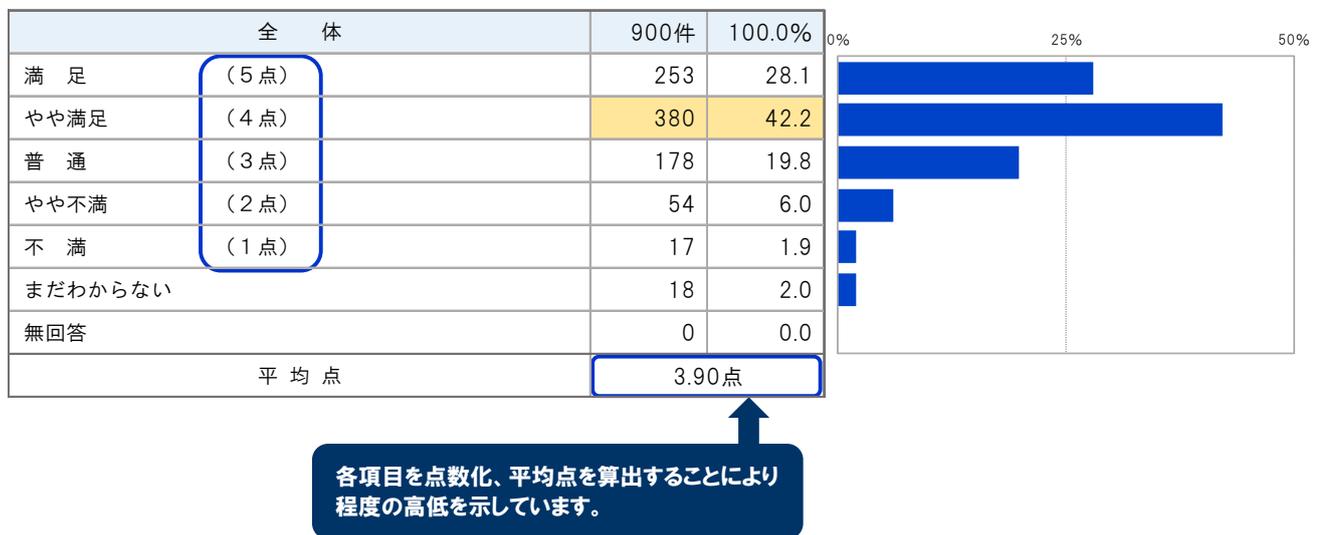
調査結果は、以下の様な表とグラフを用いて表示しています。

2-1. 東京海洋大学入学への志望度合い



※複数回答を認めている場合、構成比(%)の合計が100%を超える事があります。

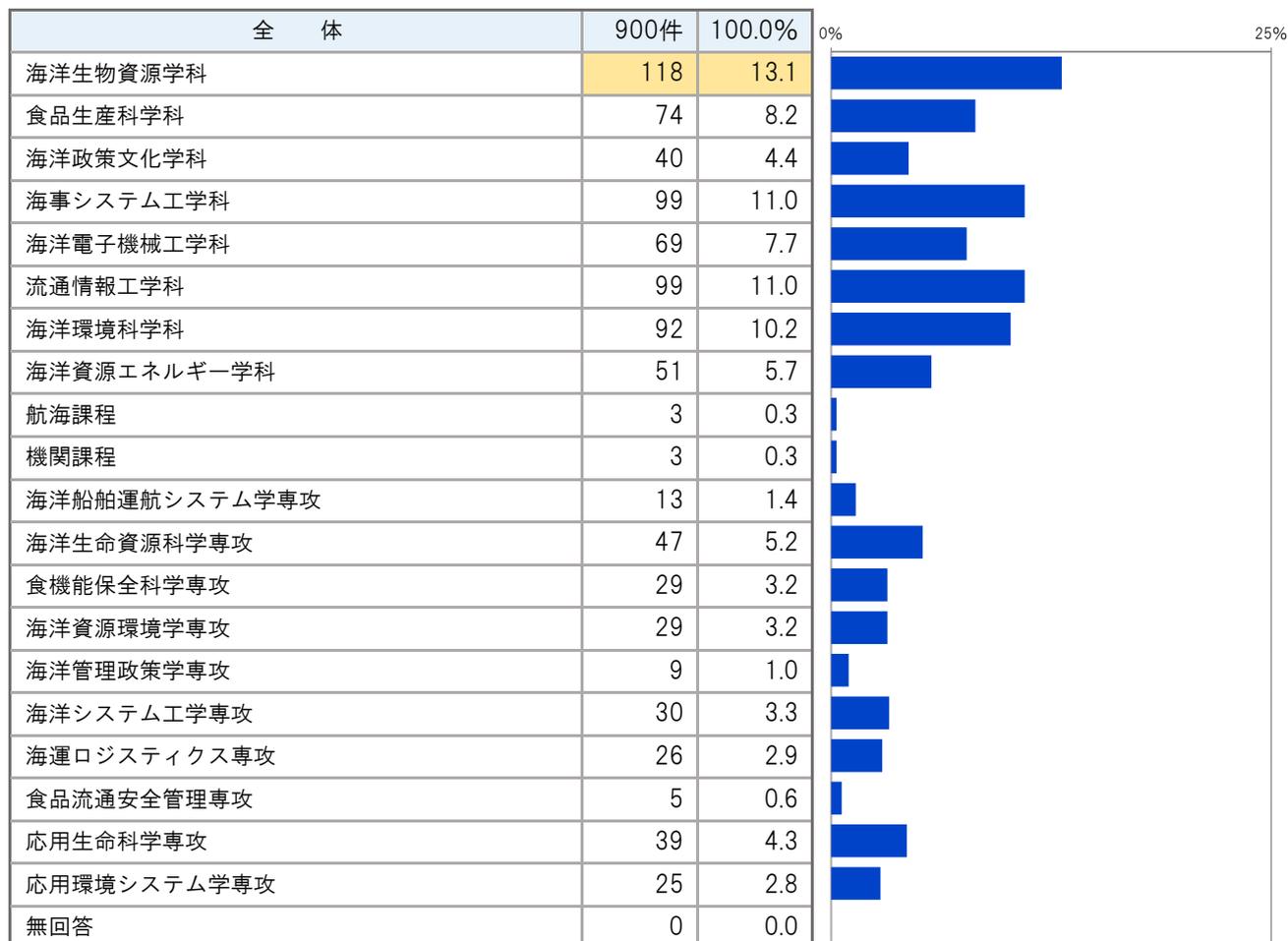
3-1. 大学の教育への満足度



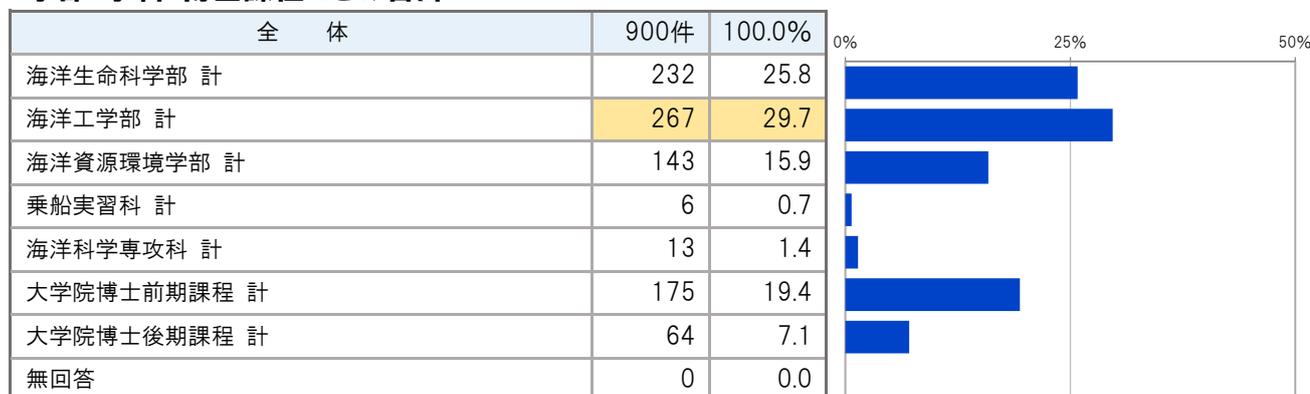
I. 基本的な事項について

1-1. 回答者の所属学科、課程または専攻

今回の調査への回答者数の合計は900名、全学生に対する回答者の割合は33.2%であり、前回調査(900名・32.3%)とほぼ同じであった。前々回の調査と比較すると大幅に回答者数と回答者割合が落ち込んでおり、次回の調査においては実施方法を検討する必要があると考えられる。回答者が所属する学部・学科・課程等によって回答者数にバラツキが大きく、学部生の回答者が多いことが特徴的である。したがって、この点を留意してアンケート結果を分析する必要がある。ただし、回答者の属性の傾向は前回調査も同様であることから、今回と前回のアンケート結果を比較することは可能であると考えられる。



学部・学科・博士課程ごとの合計



1-2. 回答者の学年

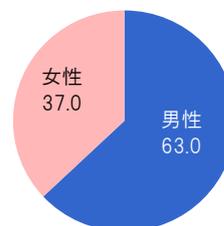
回答者の学年は「学部2年」の回答が多く、次いで「学部3年」となっている。学部2・3年生には4月のオリエンテーションの際に今回の調査の説明をしており、それが回答者数の多い要因だと考えられる。前回調査では「学部1年」の回答者数が214名と最も多かったが、今回の調査では126名と大幅に減少している。本調査は大学生生活に関する質問項目が多く、学部1年生は4月のオリエンテーションの段階ではこれらの質問に回答することができないということも要因のひとつとして考えられる。次回の調査では学年ごとの実施時期について検討する必要があると考えられる。

全 体	900件	100.0%
学部1年	126	14.0
学部2年	251	27.9
学部3年	165	18.3
学部4年	100	11.1
実習科1年	6	0.7
専攻科1年	13	1.4
博士前期課程1年	96	10.7
博士前期課程2年	79	8.8
博士後期課程1年	24	2.7
博士後期課程2年	16	1.8
博士後期課程3年	24	2.7
無回答	0	0.0

1-3. 回答者の性別

性別は本学学生の男女比を反映した結果になっており、前回と同様であった。

全 体	900件	100.0%
男 性	567	63.0
女 性	333	37.0
無回答	0	0.0



1-4. 外国人留学生であるか

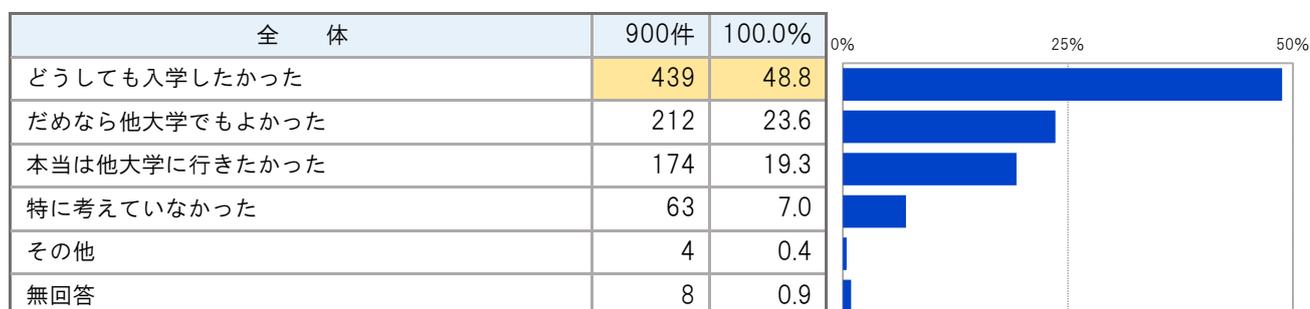
前回調査と比較して国費外国人留学生の回答者数が著しく増加した(23→57)。それに対して私費外国人留学生の回答者数はわずかな増加に留まっている。この要因については、コロナ禍の影響によるものであるのか、あるいは国費外国人留学生自体の数が増加しているのか検証が必要である。

全 体	900件	100.0%
私費外国人留学生である	48	5.3
国費外国人留学生である	57	6.3
外国人留学生ではない	749	83.2
無回答	46	5.1

II. 入学について

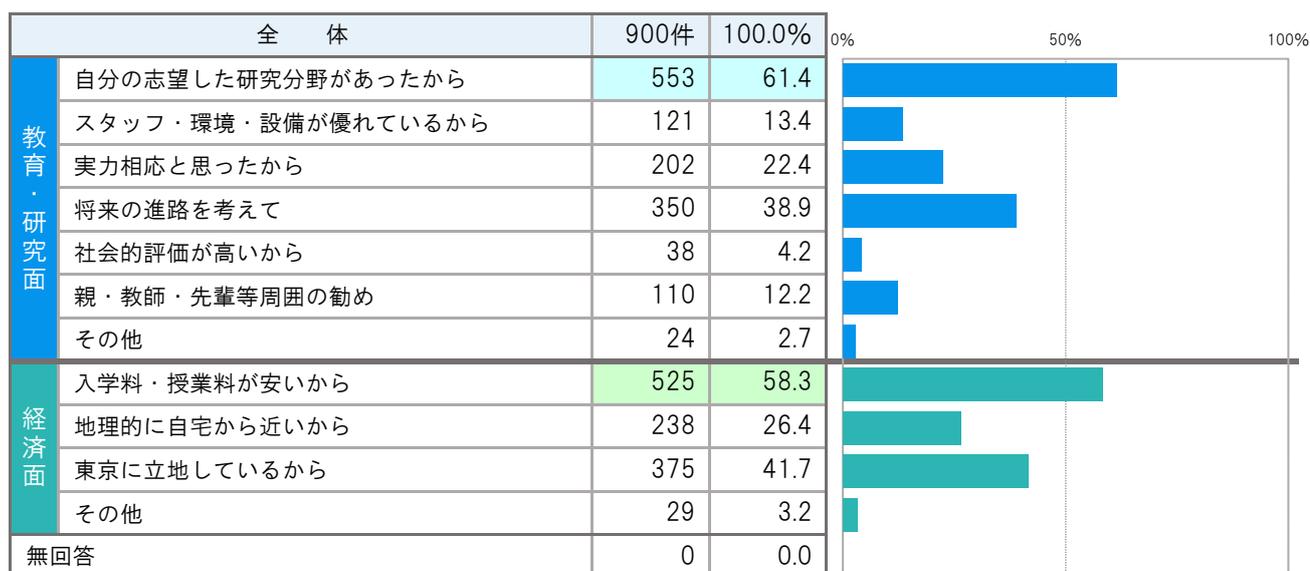
2-1. 東京海洋大学入学への志望度合い

「どうしても入学したかった」が最も多く、約半数が本学を第一希望としていた。前回調査と比較して、わずかであるが「だめなら他大学で良かった」の割合が上がり、「本当は他大学に行きたかった」の割合が下がっている。



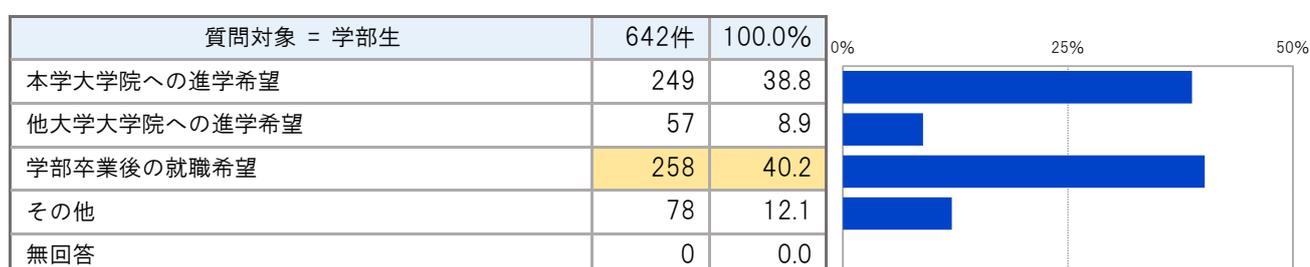
2-2. 入学の動機〔教育・研究面／経済面 それぞれ2つまで回答可〕

「自分の志望した研究分野があったから」と「入学料・授業料が安いから」の割合が高い。全体の分布傾向は前回調査と大きく変わらないが、前回と比較して教育・研究面では「社会的評価が高いから」「親・教師・先輩等周囲の勧め」の割合がわずかに増加し、経済面においては「東京に立地しているから」の割合がわずかに増加した。



2-3. 学部卒業後の大学院への進学又は就職希望について

卒業後は就職を希望する学生が最も多いが、その割合は前回調査(40.2→42.9%)よりわずかに減少し、代わりに本学大学院への進学希望者が増加した(35.9→38.8%)。また、他大学大学院への進学希望者もわずかに増加している(7.1→8.9%)。

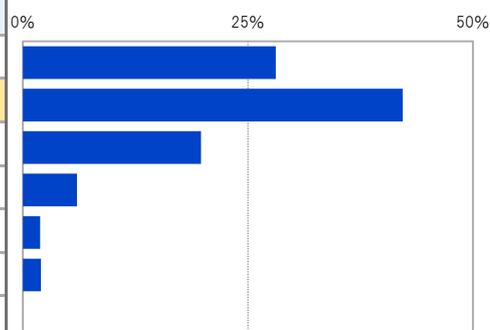


Ⅲ. 修学関係について

3-1. 大学の教育への満足度

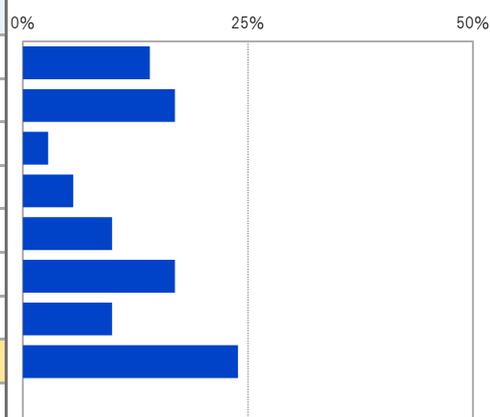
「やや満足」が最も多く、その割合は42.2%と前回調査(36.6%)よりも高くなっている。また「満足」の割合も大幅に上昇している(17.8→28.1%)。「やや不満」と「不満」の割合は低下している。不満な理由としては、「その他」が最も多く、次いで「教員の教え方が悪い」と「講義の内容(専門的内容の充実)」が多い。その他の内容としては、受講したい科目が抽選や時間割の重複などで受けることができないといった回答があった。

全 体		900件	100.0%
満 足	(5点)	253	28.1
やや満足	(4点)	380	42.2
普 通	(3点)	178	19.8
やや不満	(2点)	54	6.0
不 満	(1点)	17	1.9
まだわからない		18	2.0
無回答		0	0.0
平均点		3.90点	



SQ. 大学の教育に不満な理由

3-1. 大学の教育への満足度 = やや不満、不満		71件	100.0%
カリキュラムの内容に魅力を感じない・感じなくなった		10	14.1
講義の内容(専門的内容の充実)		12	16.9
講義の内容(基礎的内容の充実)		2	2.8
自分の考えていた内容・進路とは違った		4	5.6
設備が不十分(自習室・共用スペース)		7	9.9
教員の教え方が悪い		12	16.9
授業数(課題)が多く、学習したい内容に集中できない		7	9.9
その他		17	23.9
無回答		0	0.0



3-2. 大学の研究指導への満足度

「満足」が半数を超えており、「やや満足」と合わせると77.6%が研究指導に満足している。前回調査と比較すると「満足」の割合が著しく上昇している(39.9→52.5%)。一方、「やや不満」「不満」を合わせた割合が低いが、前回調査から変化していない(5.4→5.9%)。不満な理由は「研究の進め方について指導が不足している」の割合が高く、この傾向は前回調査でも同様であった。

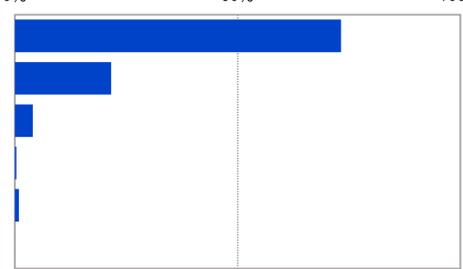
質問対象 = 学部4年生・大学院学生	339件	100.0%	0%	50%	100%
満足 (5点)	178	52.5			
やや満足 (4点)	85	25.1			
普通 (3点)	51	15.0			
やや不満 (2点)	14	4.1			
不満 (1点)	6	1.8			
まだわからない	5	1.5			
無回答	0	0.0			
平均点	4.24点				

SQ. 大学の研究指導に不満な理由

3-2. 大学の研究指導への満足度 = やや不満、不満	20件	100.0%	0%	50%	100%
自分が考えていた進路や希望するテーマとは違っていた	2	10.0			
魅力的な研究・興味のある研究がない	0	0.0			
研究の進め方について指導が不足している	11	55.0			
研究の進め方について自分で考える余地がない	3	15.0			
研究以外の内容が多い	1	5.0			
その他	3	15.0			
無回答	0	0.0			

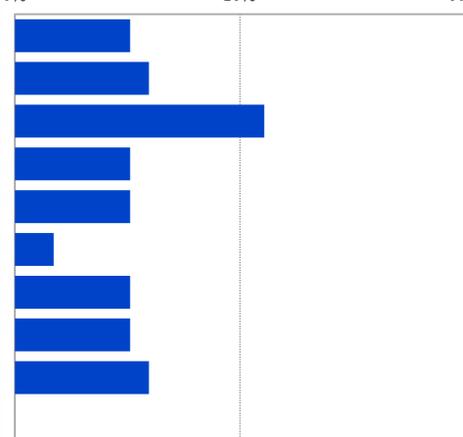
3-3. 授業の出席頻度

「どの授業にもほとんど出席している」が最も多いが、前回調査と比較するとその割合は低下している(84.4→73.2%)。「一部を除いて大部分の授業に出席している」(13.3→21.6%)と「どの授業にも出たり出なかつたりしている」(1.2→4.0%)の割合が前回調査よりも高くなっている。

全 体	900件	100.0%	0%	50%	100%
①どの授業にもほとんど出席している	659	73.2			
②一部を除いて大部分の授業に出席している	194	21.6			
③どの授業にも出たり出なかつたりしている	36	4.0			
④一部を除いて大部分の授業に出席していない	3	0.3			
⑤どの授業にもほとんど出席していない	8	0.9			
無回答	0	0.0			

3-4. 授業に欠席する理由〔2つまで回答可〕

回答者数が47であり、前回調査の11よりも多くなっている。「授業に魅力がない」が最も多く、この傾向は前回調査と同様である。それ以外の理由としては「課外活動のため」以外はほぼ同数であった。

3-3. 出席頻度 = ③~⑤のいずれかを回答	47件	100.0%	0%	25%	50%
必要な単位をほとんど取得したため	6	12.8			
勉強をあまりしようと思わない	7	14.9			
授業に魅力がない	13	27.7			
授業が理解できない	6	12.8			
健康上の理由のため	6	12.8			
課外活動のため	2	4.3			
経済的な理由のため	6	12.8			
ただなんとなく	6	12.8			
その他	7	14.9			
無回答	0	0.0			

3-5. 学習やレポート作成等に費やす時間（1日の平均時間）

①②③とも「1～2時間未満」が最も多い。前回調査では①③は同様であったが、②は「2～3時間未満」が最も多かった。前回調査はコロナ禍でオンデマンド方式の授業があり、「課題やレポート作成」の時間が多かったのではないかと考えられる。平均時間を前回と比較すると①は1.6→1.4時間、②は2.5→1.9時間、③は1.3→1.4時間となっており、やはり「課題やレポート作成」が減少していることがわかる。

①授業の予習・復習 ※実験・実習の準備時間等を含む

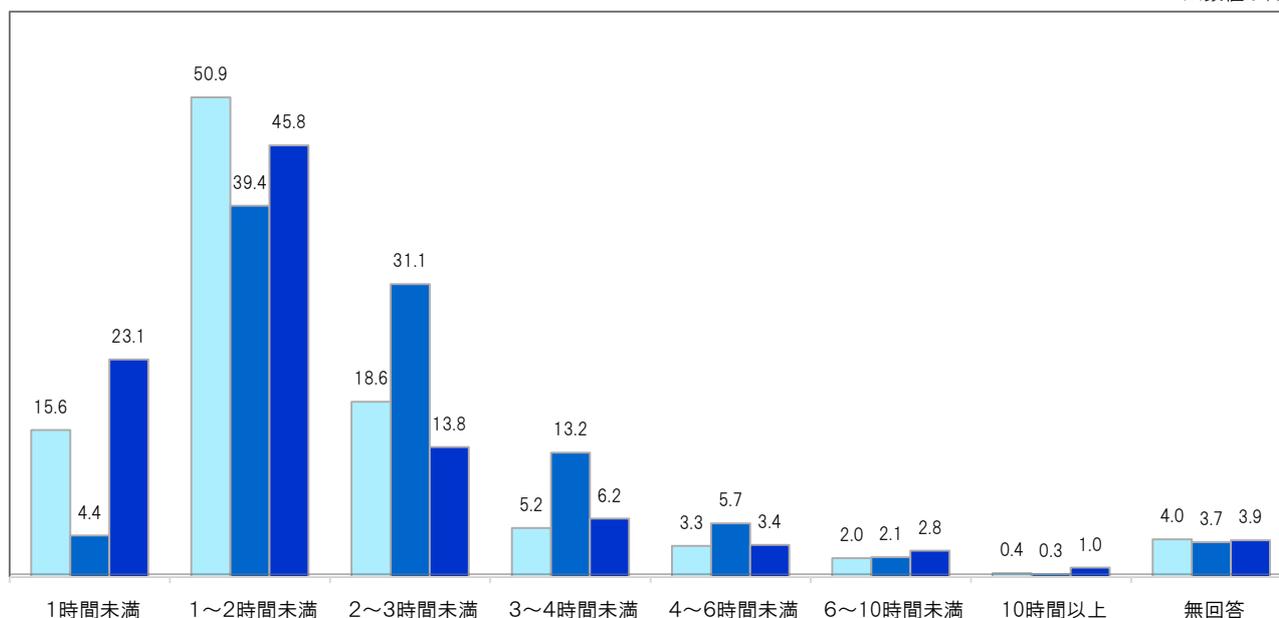
②課題やレポート作成 ※休業期間中も含む

③大学の授業と関係のない学習

※ 質問対象者数 = 900

	①授業の予習・復習		②課題・レポート作成		③大学外の学習	
1時間未満	140	15.6%	40	4.4%	208	23.1%
1～2時間未満	458	50.9%	355	39.4%	412	45.8%
2～3時間未満	167	18.6%	280	31.1%	124	13.8%
3～4時間未満	47	5.2%	119	13.2%	56	6.2%
4～6時間未満	30	3.3%	51	5.7%	31	3.4%
6～10時間未満	18	2.0%	19	2.1%	25	2.8%
10時間以上	4	0.4%	3	0.3%	9	1.0%
無回答	36	4.0%	33	3.7%	35	3.9%
平均時間	1.4時間		1.9時間		1.4時間	
最大値	14時間		14時間		14時間	

※数値は%



3-6. 授業内容が理解できなかった場合の対処〔2つまで回答可〕

「参考書・インターネットなどで調べる」が最も多く、次いで「先輩・友人などに教わる」が多い。この傾向は前回調査でも同様であった。「講義中あるいは後で教員に質問する」の割合は前回調査と比較するとわずかに上昇している(22.6→26.1%)。

全 体	900件	100.0%	0%	50%	100%
講義中あるいは後で教員に質問する	235	26.1			
先輩・友人などに教わる	607	67.4			
参考書・インターネットなどで調べる	680	75.6			
学生支援教員、学年担当に相談する	6	0.7			
オフィスアワー制度を利用し、授業担当教員に相談する	5	0.6			
指導教員に相談する	16	1.8			
その他	8	0.9			
無回答	3	0.3			

3-7. 学内で学習する場として必要な条件〔いくつでも回答可〕

「一人で集中して学習できる場」が最も多く、次いで「休日や早朝・深夜も利用できる場」が多かった。この傾向は前回調査も同様であった。前回調査と比較すると「参考書など必要な文献が利用できる場」の割合が低下していた(49.7→37.9%)。

全 体	900件	100.0%	0%	50%	100%
一人で集中して学習できる場	673	74.8			
複数で会話しながら学習できる場	376	41.8			
参考書など必要な文献が利用できる場	341	37.9			
パソコンが利用できる場	412	45.8			
休日や早朝・深夜も利用できる場	441	49.0			
飲食ができる場	258	28.7			
その他	24	2.7			
無回答	3	0.3			

3-8. 東京海洋大学の学位授与方針が、入学後現在までに身についたと思うか

前回調査と比較すると平均点は①(3.67→3.91)、②(3.77→4.02)、③(3.55→3.86)、④(3.74→4.01)、⑤(3.27→3.57)と、全ての項目において高くなっている。これは全ての項目で「そう思う」の割合が10ポイント前後高くなっていることによるものである。

	件数	(5点思う)	(4点思う)	(3点でもない)	あまり(2点)そう思わない	(1点)思わない	無回答	平均点
①海洋の科学的認識を深化させ、自然環境の望ましい活用方を提示、実践する能力	900 100.0	293 32.6	360 40.0	139 15.4	67 7.4	34 3.8	7 0.8	3.91
②論理的思考能力、適切な判断力、社会に対する責任感を持って行動する能力	900 100.0	317 35.2	369 41.0	138 15.3	54 6.0	17 1.9	5 0.6	4.02
③現代社会の諸課題について理解・認識し、対応できる実践的指導力	900 100.0	264 29.3	354 39.3	182 20.2	65 7.2	26 2.9	9 1.0	3.86
④豊かな人間性、幅広い教養、深い専門知識・技術による課題探究、問題解決能力	900 100.0	304 33.8	381 42.3	143 15.9	45 5.0	20 2.2	7 0.8	4.01
⑤国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養	900 100.0	209 23.2	300 33.3	222 24.7	118 13.1	44 4.9	7 0.8	3.57

IV. 学生生活について

4-1. 全体としての学生生活の満足度

平均点が前回の調査での3.68点から大幅に上昇している。これは前回の調査時はコロナ禍真っ只中であり、オンライン講義が中心でサークル、部活動、アルバイト生活が著しく制限されていたことが主な原因であると思われる。

全 体		900件	100.0%
満 足	(5点)	336	37.3
やや満足	(4点)	345	38.3
普 通	(3点)	143	15.9
やや不満	(2点)	39	4.3
不 満	(1点)	16	1.8
無回答		21	2.3
平均点		4.08点	

4-2. 学生生活における大学の対応や支援についての満足度(1～7位の順位で回答)

教育・修学支援が前回に引き続き、1位を獲得していて、前回に比べて8パーセント上昇している。10%近く上昇したのは前回の調査時はコロナ禍でオンライン、オンデマンド形式が多く、サポートが難しかった状況が改善したことも要因として考えられる。

	件数	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	無回答
①教育・修学	900 100.0	393 43.7	164 18.2	112 12.4	62 6.9	43 4.8	30 3.3	27 3.0	69 7.7
②学生支援	900 100.0	55 6.1	138 15.3	138 15.3	146 16.2	126 14.0	117 13.0	108 12.0	72 8.0
③経済状況	900 100.0	103 11.4	111 12.3	153 17.0	115 12.8	127 14.1	125 13.9	97 10.8	69 7.7
④居住環境	900 100.0	82 9.1	64 7.1	70 7.8	132 14.7	136 15.1	150 16.7	194 21.6	72 8.0
⑤健康・悩み	900 100.0	51 5.7	58 6.4	93 10.3	146 16.2	190 21.1	151 16.8	138 15.3	73 8.1
⑥課外活動	900 100.0	121 13.4	133 14.8	119 13.2	100 11.1	82 9.1	142 15.8	129 14.3	74 8.2
⑦進路・就職	900 100.0	108 12.0	151 16.8	145 16.1	121 13.4	105 11.7	88 9.8	112 12.4	70 7.8

4-3. 大学の窓口対応について

前回調査時より満足度がやや上昇している。分布は前回と同じ様子であるが、満足～普通の差が縮まっており、満足の学生が増えている。

全 体		900件	100.0%
満 足	(5点)	220	24.4
やや満足	(4点)	243	27.0
普 通	(3点)	281	31.2
やや不満	(2点)	95	10.6
不 満	(1点)	53	5.9
無回答		8	0.9
平均点		3.54点	

4-4. 大学での友人関係は良いと思うか

前回より平均点がやや上昇している。これもコロナ禍に比べて交流が活発になっているのが一因と考えられる。

全 体		900件	100.0%
そう思う	(5点)	499	55.4
ややそう思う	(4点)	274	30.4
どちらでもない	(3点)	84	9.3
あまりそう思わない	(2点)	22	2.4
そう思わない	(1点)	15	1.7
無回答		6	0.7
平均点		4.36点	

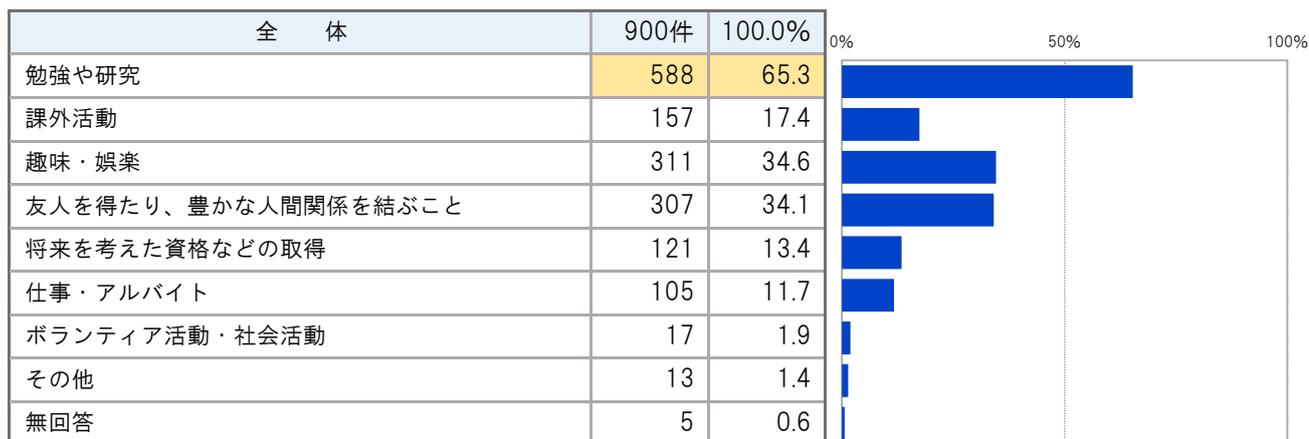
4-5. 自分の1日の生活リズムは規則正しいと思うか

前回に比べて平均点はやや上昇している。分布の様子は前回と同じである。大学生になって不規則な生活になる学生は昔からある程度いるので、それを反映した分布になっていると思う。

全 体		900件	100.0%
そう思う	(5点)	216	24.0
ややそう思う	(4点)	281	31.2
どちらでもない	(3点)	141	15.7
あまりそう思わない	(2点)	179	19.9
そう思わない	(1点)	76	8.4
無回答		7	0.8
平均点		3.43点	

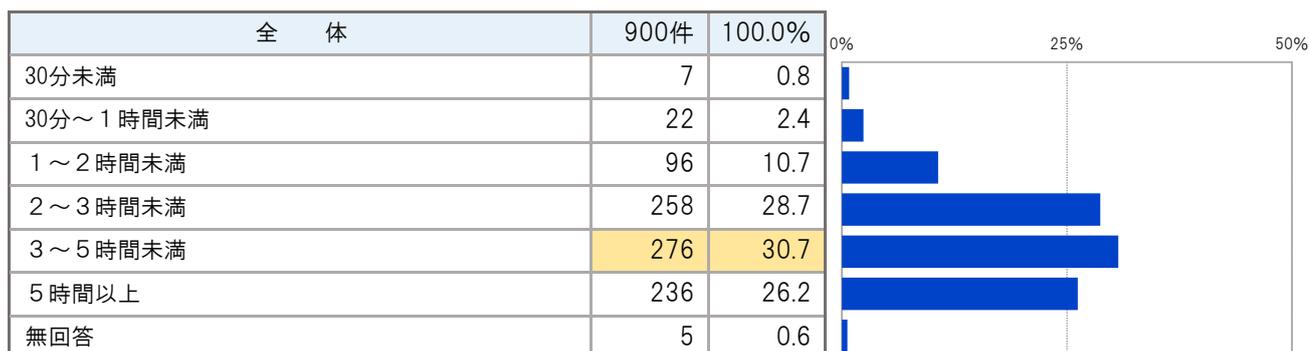
4-6. 現在の大学生生活で最も大切にしている事〔2つまで回答可〕

分布は前回と大体同じであるが、勉強や研究の率が前回の72パーセントから7パーセント下がっている。一方で、4-1. 教育、修学の満足度は前回に比べて大幅に上がっている。



4-7. 通信機器(スマートフォンなど)をメールやインターネットで使用する時間(1日の平均時間)

前回の調査では3時間以上が66パーセントであったので、10パーセント近く下がっている。これは前回調査時がオンライン、オンデマンド形式中心の講義だったことが大きな要因かと思われる。



V. 通学・居住について

5-1. 回答者が現在住んでいる住居の区分

自宅が5%減り、自宅外(学生寮、国際交流会館、借上寮)が5%増えている。

全 体	900件	100.0%	0%	25%	50%
①自 宅	448	49.8			
②自宅外 (賃貸マンション・アパート)	196	21.8			
③自宅外 (学生寮、国際交流会館、借上寮)	233	25.9			
④自宅外 (その他)	23	2.6			
無回答	0	0.0			

5-2. 賃料から考えての住居の住み心地

分布は前回と同じ様子であるが、平均点が少し下がっている。

5-1. 現在の住居区分 = 自宅外(②~④)を回答	452件	100.0%	0%	25%	50%
満足している (5点)	201	44.5			
どちらかという満足している (4点)	141	31.2			
どちらともいえない (3点)	53	11.7			
どちらかという不満である (2点)	36	8.0			
不満である (1点)	21	4.6			
無回答	0	0.0			
平均点	4.03点				

SQ. 住居に不満を感じている点〔2つまで回答可〕

5-2. 住み心地…どちらかという不満、不満	57件	100.0%	0%	25%	50%
部屋が狭い	27	47.4			
通学に不便	4	7.0			
家賃が高い	20	35.1			
施設が充実していない	24	42.1			
その他	14	24.6			
無回答	0	0.0			

5-3. 学生寮について

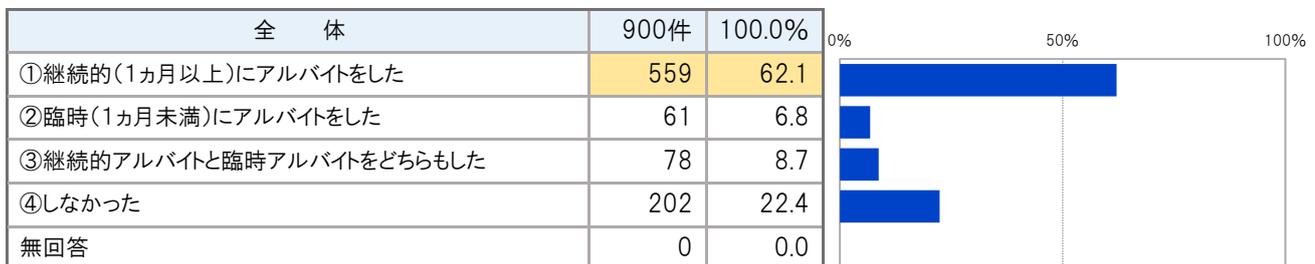
前回と同じ様子である。可能ならずっと入寮したいという回答が増えた一方、学生寮の入寮を希望する回答が減っており、入寮希望の学生がより多く入寮できているのかもしれない。一方で転居したいという回答も増えており、寮に不満を持っているかもしれない学生が前回より増えているようである。

全 体	900件	100.0%	
現在入寮していて、可能ならずっと入寮したい	206	22.9	
現在自宅または一人暮らしで、学生寮の入寮を希望する	115	12.8	
現在入寮しているが、今後マンション等に転居したい	28	3.1	
現在自宅または一人暮らしで今後も今の住居から通学したい	524	58.2	
無回答	27	3.0	

Ⅵ. アルバイトについて

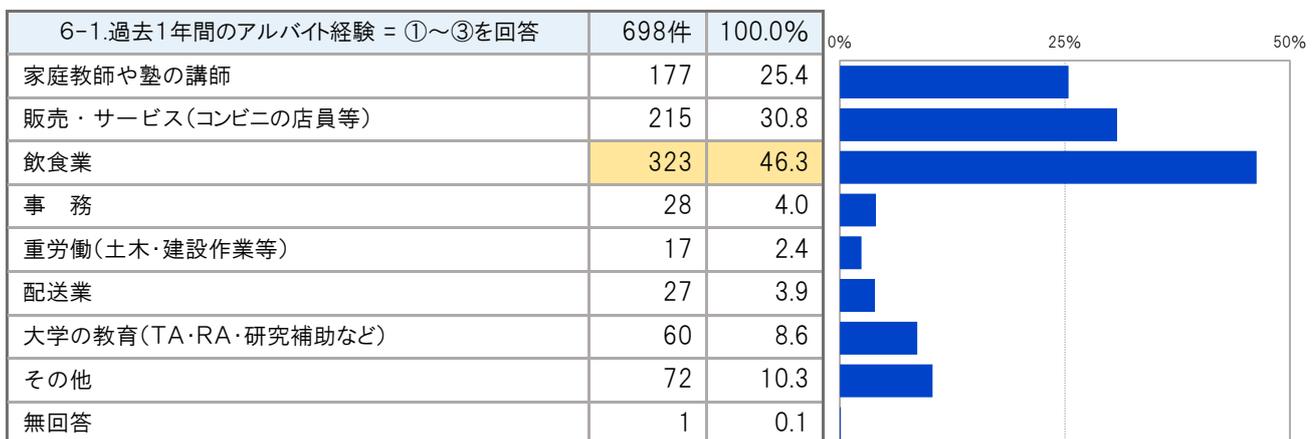
6-1. 過去1年間のアルバイト経験

継続的(1ヶ月以上)アルバイトをした学生は5%ほど増えている。これはコロナ禍が明けた影響が一因として考えられる。



6-2. 経験したアルバイトの種類〔2つまで回答可〕

前回と分布は同じ様子であるであるが、配送業が3%減り、飲食業、大学の教育が3%上がっている。



6-3. 1週間のアルバイト従事時間(往復の時間を含む)

前回に比べて5～10時間未満が5%減り、10～20時間未満が8%近く上昇している。これはコロナ禍での需要の減少が戻ったことが一因と思われる。



VII. 健康・悩みなどについて

7-1. 自分の健康状況についての認識

自分の健康状態は令和3年度と比較して、「とても健康」と言っている学生と「健康」と言っている学生を合わせて76.3%であり、学生の大部分は自分が健康であるという認識がある。その一方で、「普通」と考えている学生が23.4%に下がっており、「不健康」と「とても不健康」と10%の学生は感じていることを見ると、学生自身の健康状態は令和3年度と比較して差が認められないが、「普通」であると感じている学生が減っていることで、健康か不健康かのどちらかに分布が分かれているように思われる。

	全 体	900件	100.0%
とても健康 (5点)		272	30.2
健 康 (4点)		325	36.1
普 通 (3点)		211	23.4
不健康 (2点)		83	9.2
とても不健康 (1点)		7	0.8
無回答		2	0.2
平均点		3.86点	

7-2. 現在抱えている悩みや不安〔2つまで回答可〕

令和3年度と同様に、学生自身の進路・就職は悩みの種である。令和3年度と比較して学業の問題で悩むよりは、経済的な問題で悩んでいる学生が多くなった。これは今の物価高を反映しているとみてよいであろう。悩みを自覚していない学生も令和3年度に比べて増えており、よいのかもしれない。身体的、精神的不調をどう克服すればよいのか、学生本人も「悩んでいる」人が多いと感じた。また、友人関係、恋愛関係での悩みが増えており、コロナ禍が終わり、コミュニケーションが必要になっているにも関わらず、うまくできないと自覚している学生が増えているともとらえられる。

	全 体	900件	100.0%
身体的不調		99	11.0
精神的不調		184	20.4
経済的問題		124	13.8
学業の問題		213	23.7
進路・就職		306	34.0
友人関係や恋愛関係		87	9.7
その他		17	1.9
特にない		245	27.2
無回答		16	1.8

7-3. 悩みや不安が生じたときの相談相手

令和3年度とほとんど変わらず、困ったときの相談相手がいることは学生本人の精神状態にとってよいことである。相談相手がいってくれと感じることは「学生生活をうまく送れている」と感じている学生が多数と思われる。コロナが終わったので、コミュニケーション力が必要となるであろうが、10%の学生は適切な相手がいらないと言っており、さらに、相談相手は不要と言っている学生も9.2%いることから20%近くの学生は相談相手がいらないこともあり、学生自身の心の健康を保っていくことの重要さが問われていると思われる。

	全 体	900件	100.0%
相談相手がいる		536	59.6
相談相手はいるが、もっと頼れる相手が欲しい		188	20.9
相談したいが適切な相手は見つからない		90	10.0
相談相手は必要ない		83	9.2
無回答		3	0.3

7-4. 制度の利用状況

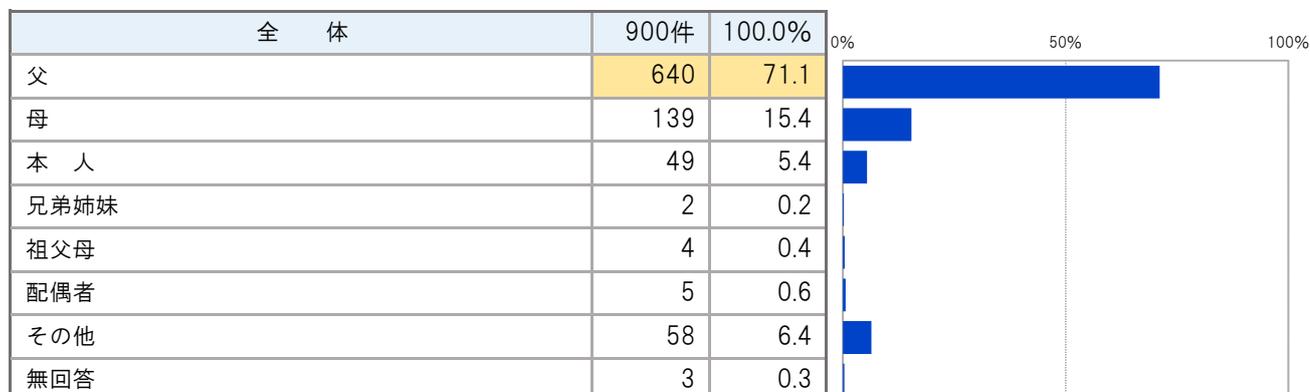
令和3年度に比較して、保健センターや学生相談室の相談についての利用状況が減っており、学生意見箱やなんでも相談窓口の利用が増えている。これをみると、教員や職員に意見を言いたいことが多く、健康相談やお悩み相談には利用したいと思っている学生が少なくなったと思われる。これは、教職員に何かを訴えることが多いとするならば、教職員にも反省すべきところがあるのかもしれない。また学生自身が大いに健康、健康であるもっているのので、保健管理センターや学生相談室に相談することを必要としていないのかもしれない。

	件数	利用したことがある	利用したことがない	利用したいが、必要ない	利用したいが、必要ない	知らない	無回答
①保健管理センターの健康相談	900 100.0	90 10.0	413 45.9	125 13.9	263 29.2	9 1.0	
②学生相談室の学生生活に関する悩みなどの相談	900 100.0	69 7.7	451 50.1	146 16.2	224 24.9	10 1.1	
③学生意見箱	900 100.0	14 1.6	265 29.4	91 10.1	521 57.9	9 1.0	
④なんでも相談窓口	900 100.0	17 1.9	262 29.1	85 9.4	526 58.4	10 1.1	

VIII. あなたの経済状況について

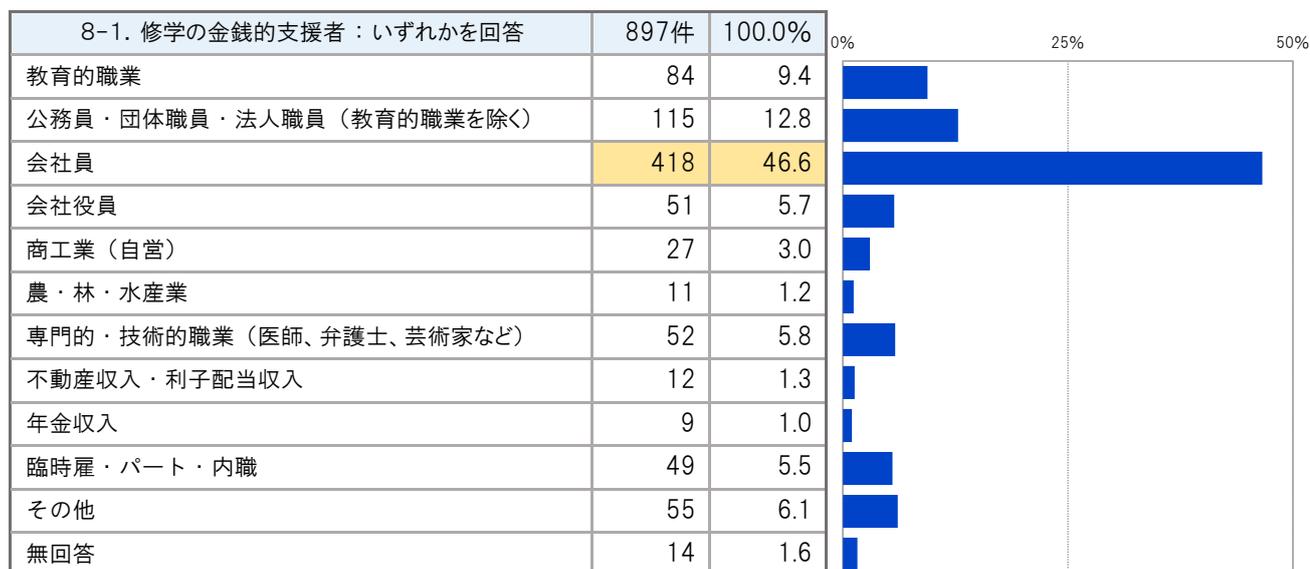
8-1. 修学を金銭的に支えてくれる主な人

一般には、ご両親がいれば、父親と書くであろうから。15%は母親が経済的に支えているとすると、かなり経済的には余裕がないかもしれない。(シングルマザーなど)5%も経済的に自立しないといけない学生がいるとすると、この物価高に対して、経済的援助が必要かもしれない。



8-2. 修学を金銭的に支えてくれる人の職業

一般的な会社員である父親が経済的に支援しているとみなせる。ただ、臨時雇等の仕事で経済的に支えている学生もいるので彼らに対しては大学として援助していく必要があるであろう。



8-3. 修学を金銭的に支えてくれる人の年収

年収として500万円までの支援者が、27%もいるので、全体の25-30%の学生はあまり経済的支援を得られないと思う。一方、正規職員である500万円から1000万円が40%を占めており、これらの支援者が学生を支えていると思われる。どこまで学生の経済的支援を受けられるかを考えるには支援者の年収ではかるのが一番と思われる。

8-1. 修学の金銭的支援者：いずれかを回答	897件	100.0%
250万円未満	120	13.4
250～500万円未満	126	14.0
500～750万円未満	175	19.5
750～1000万円未満	193	21.5
1000～1250万円未満	139	15.5
1250万円以上	71	7.9
無回答	73	8.1

8-4. 収入及び支出の平均額（月額）

学生の月収入はアルバイトによってまかない、1-10万円程度の支援を受けている。（103万円の扶養手当の中で済ませているように思われる。）また、全体として、食費として1-3万円程度、食費を使っているとのことである。また、通信費、課外活動費なども1万円未満で7つに分類される程度にも支出がなされている。全部を加算すると食費の他に2-3万円は必要で、節約した生活が感じられる。

	件数	1万円未満	1～3万円未満	3～5万円未満	5～7万円未満	7～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20万円以上	無回答
①家庭からの仕送り・援助やお小遣いの額	900 100.0	319 35.4	200 22.2	125 13.9	69 7.7	50 5.6	65 7.2	14 1.6	15 1.7	43 4.8
②アルバイト・給与等の収入額	900 100.0	210 23.3	95 10.6	175 19.4	170 18.9	141 15.7	39 4.3	1 0.1	17 1.9	52 5.8
③食費の平均支出額	900 100.0	170 18.9	388 43.1	221 24.6	44 4.9	15 1.7	6 0.7	3 0.3	1 0.1	52 5.8
④住居、光熱水費の平均支出額	900 100.0	407 45.2	250 27.8	74 8.2	36 4.0	47 5.2	21 2.3	1 0.1	3 0.3	61 6.8
⑤通学費の平均支出額	900 100.0	581 64.6	198 22.0	43 4.8	11 1.2	8 0.9	4 0.4	0 0.0	1 0.1	54 6.0
⑥学業費の平均支出額	900 100.0	534 59.3	248 27.6	44 4.9	10 1.1	5 0.6	1 0.1	0 0.0	0 0.0	58 6.4
⑦被服費の平均支出額	900 100.0	544 60.4	250 27.8	40 4.4	8 0.9	3 0.3	0 0.0	1 0.1	0 0.0	54 6.0
⑧課外活動費の平均支出額	900 100.0	548 60.9	217 24.1	52 5.8	16 1.8	5 0.6	0 0.0	1 0.1	2 0.2	59 6.6
⑨通信費の平均支出額	900 100.0	634 70.4	173 19.2	24 2.7	7 0.8	3 0.3	1 0.1	0 0.0	0 0.0	58 6.4
⑩その他の平均支出額	900 100.0	404 44.9	271 30.1	94 10.4	33 3.7	14 1.6	12 1.3	2 0.2	2 0.2	68 7.6

8-5. 家庭からの仕送り・援助と修学の関係

60%以上の学生は家庭からの仕送り。援助で学生の生活が賄われており、父親から経済的に支援を受けているというモデルが立てられる。しかし、家庭からの仕送り、援助がない、もしくは少ないとされている学生が33%、逆に家庭に援助をしている学生もいるので、学生が十分な勉強、課外活動に専念ができるかどうかをどう考えればよいか注意を要する。

全 体	900件	100.0%
家庭からの仕送り・援助のみで修学可能	573	63.7
家庭からの仕送り・援助のみでは修学困難	128	14.2
家庭からの仕送り・援助はない	165	18.3
家庭へ経済的な援助をしている	14	1.6
無回答	20	2.2

8-6. 昨年と比べ、家庭からの仕送り・援助額に変化があったか

家庭などの支援は変わらないということは、この物価高の中、家庭の支援がなければ難しいのであろうが、援助を受けていない学生もいるので、経済的に自立している学生には、支援は必要であろう。

全 体	900件	100.0%
増加した	75	8.3
変わらない	602	66.9
減少した	54	6.0
援助を受けていない	152	16.9
無回答	17	1.9

IX. 大学の経済支援について

9-1. 大学で実施している「授業料免除」の申請について

「授業料免除」に関しては20%の学生が申請しており、普通の経済状態のひとは「まあ、無理であろう」と感じているのではないだろうか。60%が普通の会社員の家庭で、「国立大学の授業料ならば払えると考えている」とこの数字は示している。国立大学の授業料の値上げがいわれる中、大学側は難しい課題を負っている。

全 体	900件	100.0%	0%	50%	100%
申請したことがある	178	19.8			
知っているが、申請したことがない	568	63.1			
申請制度を知らない	151	16.8			
無回答	3	0.3			

9-2. 日本学生支援機構または他の団体から奨学金について

「返済型か、給付型の奨学金」かで選択している学生が多いと思われる。普通の学生は給付型を望んでおり、返済義務があれば、支援者も本人も受給を躊躇すると思われる。給付型の奨学金を得る場合、経済的な事情に加え、成績も関与するので、あきらめて調べない学生もいると思われる。

全 体	900件	100.0%	0%	50%	100%
受けている	237	26.3			
受けていない	623	69.2			
過去に受けたことがある	38	4.2			
無回答	2	0.2			

9-3. 受けている奨学金

日本学生支援機構第1種奨学金であれば、無利子なので、借りやすいし、給付型であれば、なおさらほしいと思うであろう。38%の学生が無利子、20%の学生が有利子、20%の学生が給付型を得られているのはありがたいことである。外国人留学生も手厚い給与があり、日本の生活ができると思われる。

9-2. 奨学金 = 受けている	237件	100.0%	0%	25%	50%
日本学生支援機構第1種奨学金	89	37.6			
日本学生支援機構第2種奨学金	51	21.5			
日本学生支援機構給付奨学金	47	19.8			
民間奨学金団体・地方公共団体の奨学金	22	9.3			
日本学術振興会からの研究奨学金（給与）等	1	0.4			
公的機関等の外国人留学生対象の奨学金	48	20.3			
その他	12	5.1			
無回答	2	0.8			

9-4. 奨学金の月額

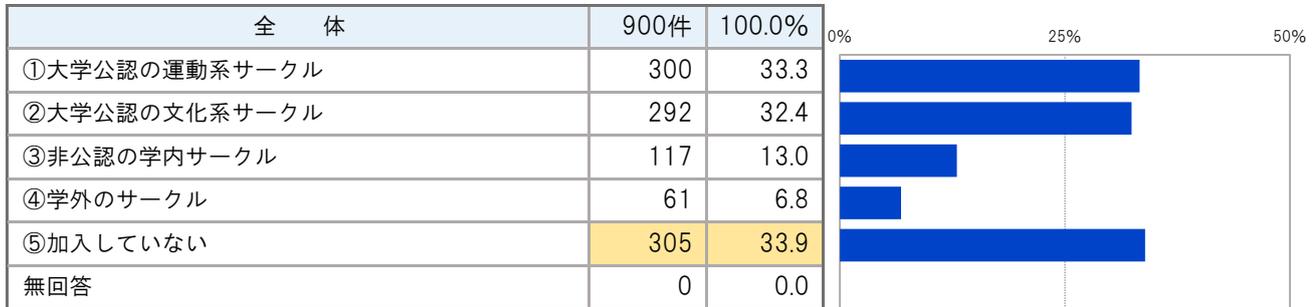
奨学金として10万円以上得られている学生は27%で、73%は1-10万円未満である。これでは自活が精一杯であろう。もしくは自宅からの通学であれば、この程度の奨学金で賄えると思われる。支援者が会社員の父親などであれば、奨学金をもらわなくても通学できると判断されていることがわかる。

9-2. 奨学金 = 受けている	237件	100.0%	
5万円未満	78	32.9	
5～10万円未満	96	40.5	
10万円以上	63	26.6	
無回答	0	0.0	

X. 課外活動について

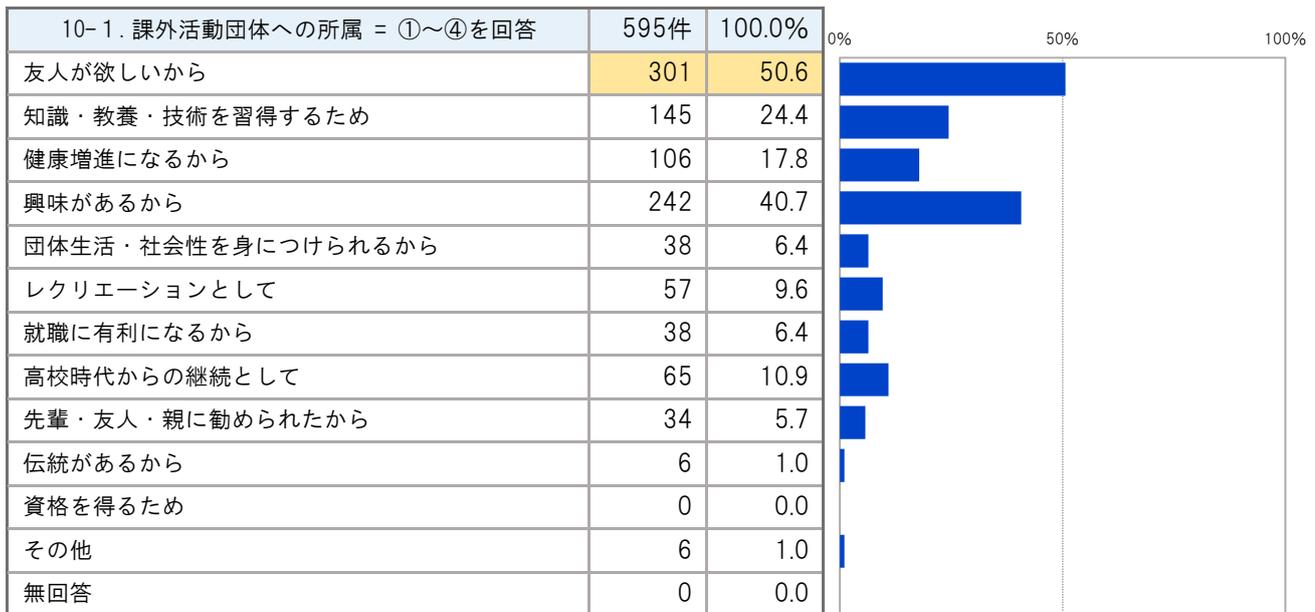
10-1. 所属している課外活動団体〔2つまで回答可〕

「加入していない」が多い原因として、アルバイトで多忙で、余裕がないことが考えられるので、経済的支援の方策を考える必要があると思われる。



10-2. サークル等加入の理由・動機〔2つまで回答可〕

「友人が欲しいから」という理由が圧倒的に多い。



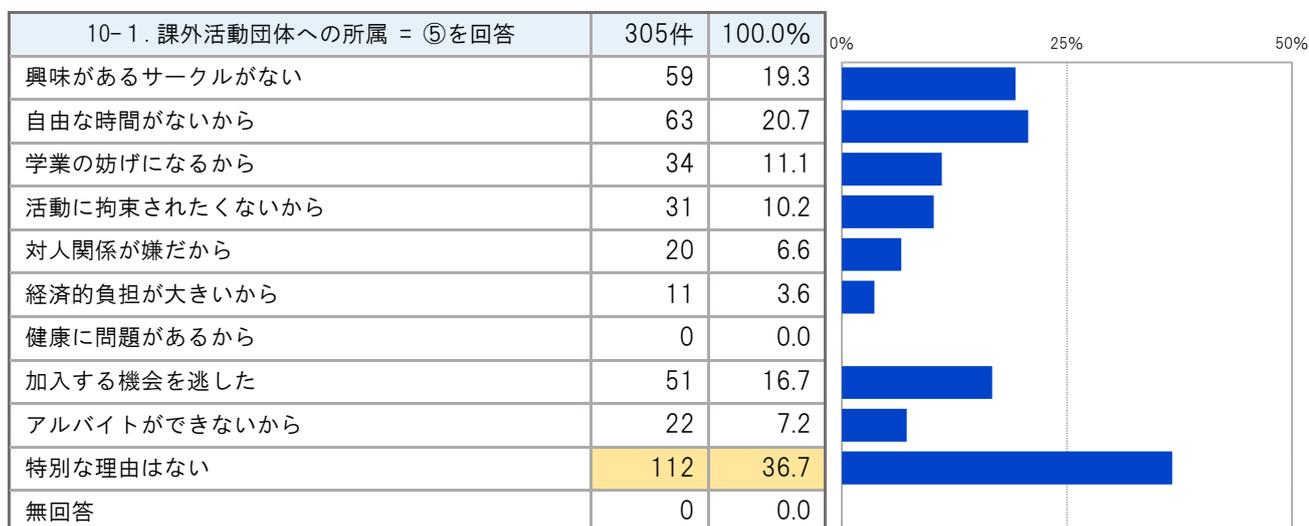
10-3. サークル等の1週間あたりの活動時間

「2時間未満」が殆どで、適切である。



10-4. サークル等に加入していない理由〔2つまで回答可〕

経済的な理由ではなく、志向性によるものであるといえる。



XI. 進路・就職について

11-1. 卒業後に希望する進路

良識ある理由であると判断できる。

全 体	900件	100.0%	0%	50%	100%
フルタイムの就職・就業（会社員・公務員・自営業など）	503	55.9			
パートタイムの就業（フリーターなど）	3	0.3			
専業主婦や専業主夫	2	0.2			
進学（大学院・専門学校・留学など）	306	34.0			
その他	16	1.8			
まだ考えていない	69	7.7			
無回答	1	0.1			

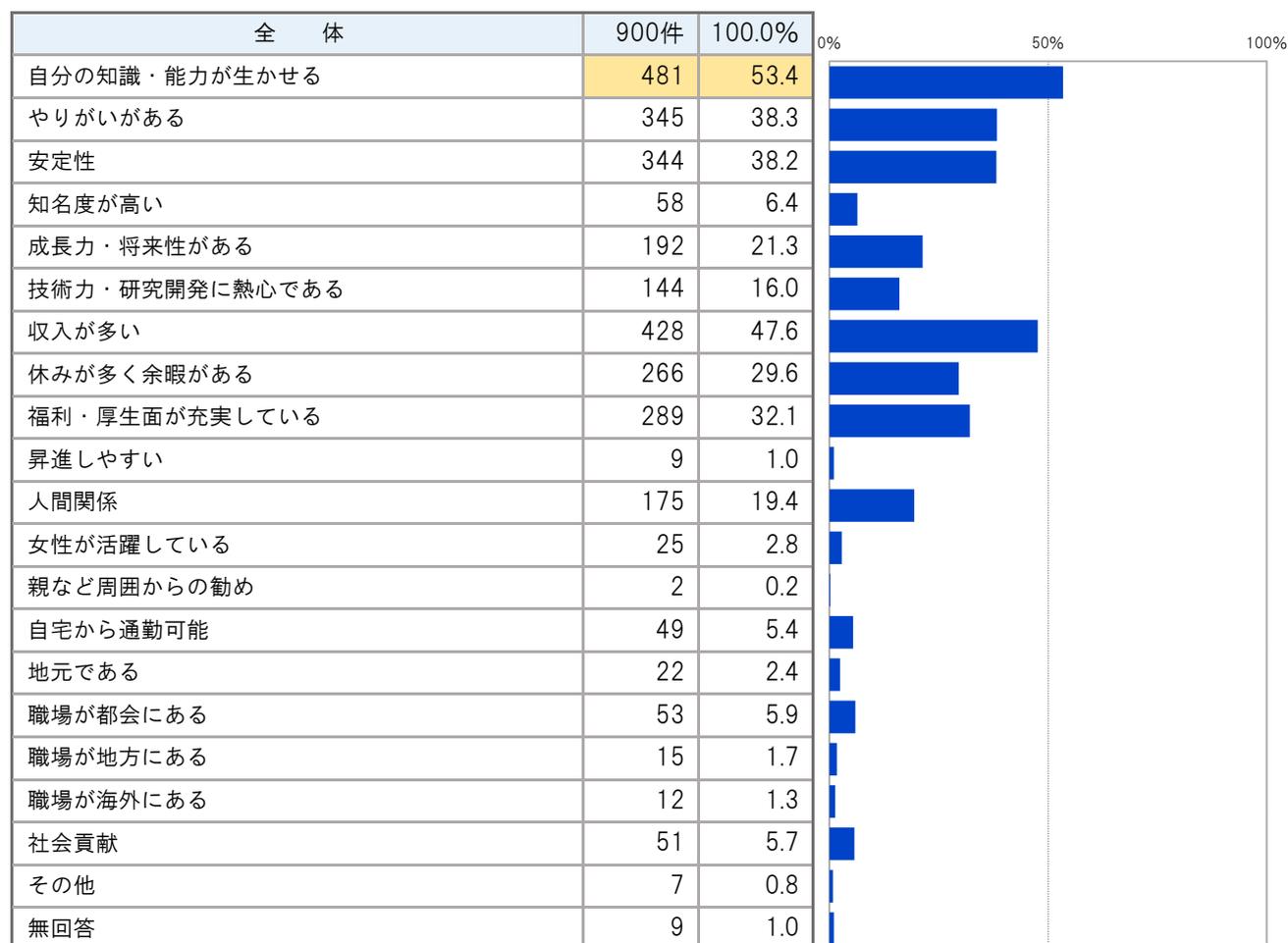
11-2. 将来、就職を希望する業種

東京海洋大学の学生であるという特徴が反映された結果である。

全 体	900件	100.0%	0%	25%
農業・林業	16	1.8		
漁業・養殖業	103	11.4		
海上職員・船舶職員	165	18.3		
建設業	8	0.9		
製造業	81	9.0		
電気・ガス・水道業	11	1.2		
情報通信業	57	6.3		
運輸業、郵便業	40	4.4		
卸売業、小売業	18	2.0		
金融業、保険業	4	0.4		
鉱 業	4	0.4		
学術研究、専門・技術サービス業	176	19.6		
宿泊業、飲食サービス業	8	0.9		
生活関係サービス業、娯楽業	8	0.9		
教育・学習支援業	30	3.3		
医療、福祉	3	0.3		
複合サービス事業	3	0.3		
サービス業	14	1.6		
不動産業、物品賃貸	0	0.0		
公務員	83	9.2		
その他	52	5.8		
無回答	16	1.8		

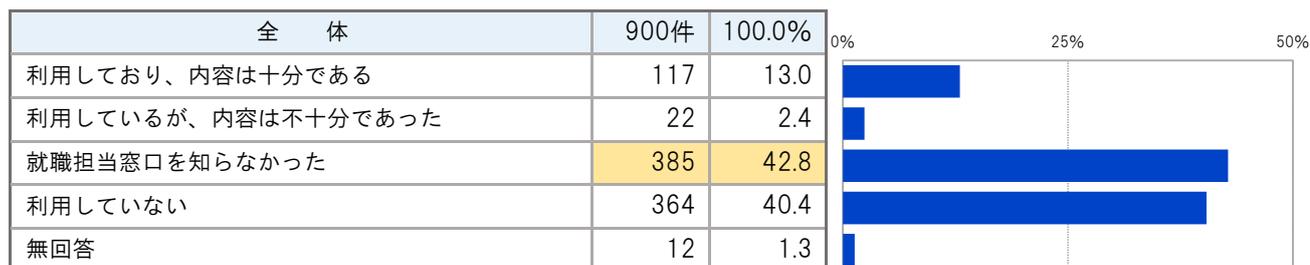
11-3. 就職先を選ぶ際、重視する事〔4つまで回答可〕

「安定性」よりも「収入が多い」のほうが多いという結果は社会的背景を暗示している。



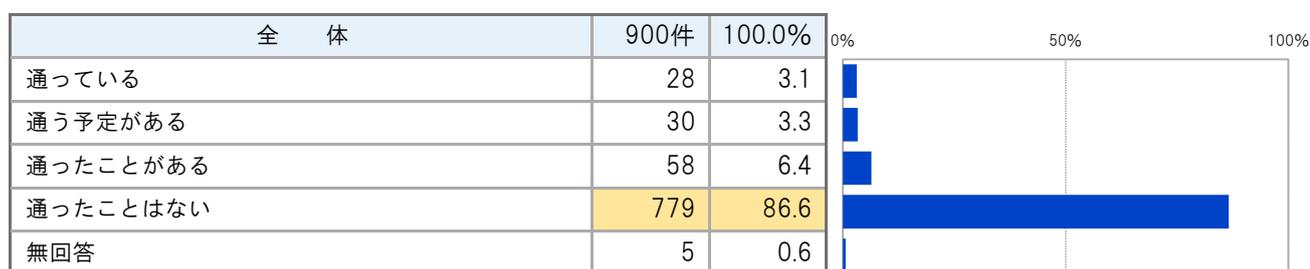
11-4. 就職担当窓口を利用しているか、また、そこからの情報提供は十分なものか

「就職担当窓口を知らなかった」との理由が多いため、周知徹底すべきである。



11-5. 大学外での資格取得等のための通学（ダブルスクール）について

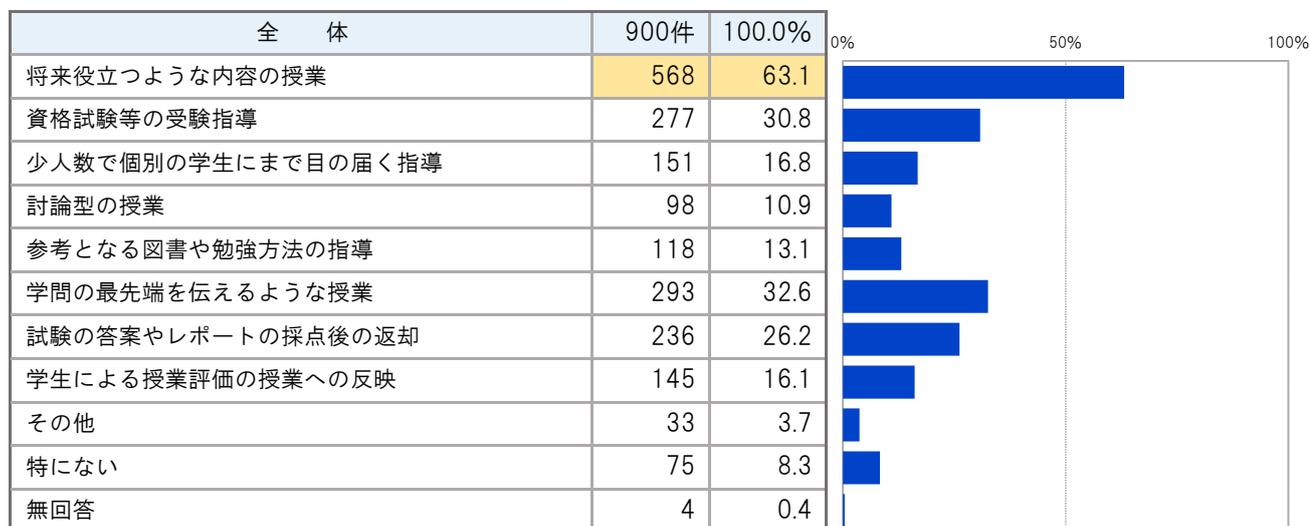
本学で得られる資格が多いため、他に通う必要がないと考えられている可能性がある。



XII. 大学への要望について

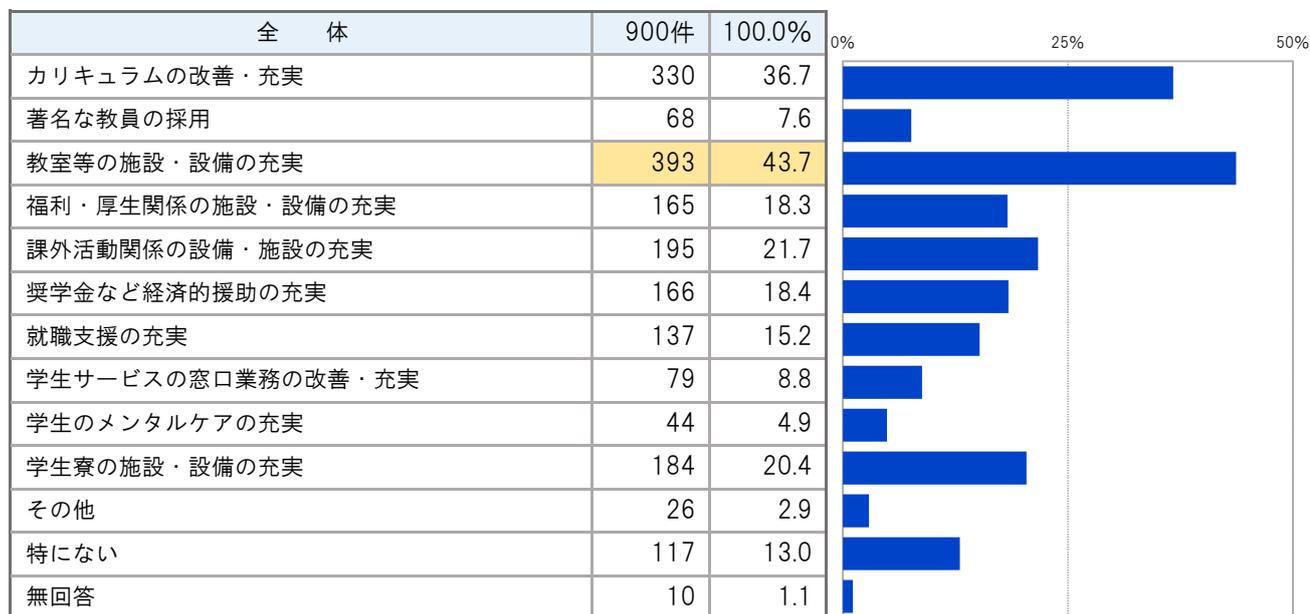
12-1. 大学の授業に対する要望や意見〔3つまで回答可〕

多くの学生が実用的かつ最先端の技能を修得したいと考えている。



12-2. 大学の教育や学生生活に対する要望や意見〔3つまで回答可〕

多くの学生が「教室等の施設・設備の充実」を望んでいるためその対策が必要である。



前回（R3年度）調査との比較

以降、前回のR3年度調査と今回の調査についての主だった内容の比較を掲載しています。

【 表とグラフの例 】

【 増減 】
前回に比べて増加の場合は数値のみ、
減少の場合は先頭に▲を付加

項目	前回	今回	増減
男性	61.3	63.0	1.7
女性	38.3	37.0	▲ 1.3
無回答	0.3	0.0	▲ 0.3

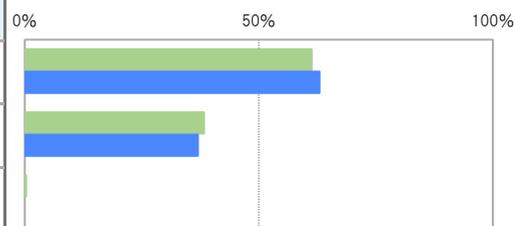
前回・今回ともに数値は構成比(%)

- 緑は前回の数値を示す
- 青は今年度数値を示す

1-3. 回答者の性別

(%)

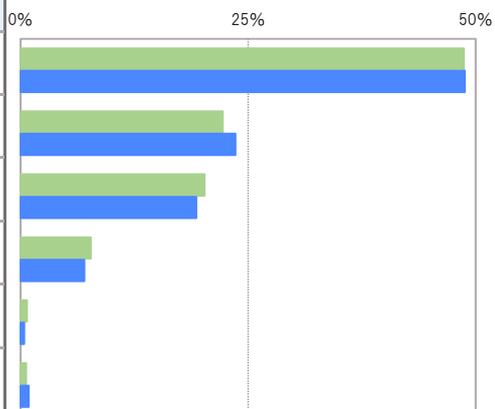
項目	前回	今回	増減
男性	61.3	63.0	1.7
女性	38.3	37.0	▲ 1.3
無回答	0.3	0.0	▲ 0.3



2-1. 東京海洋大学入学への志望度合い

(%)

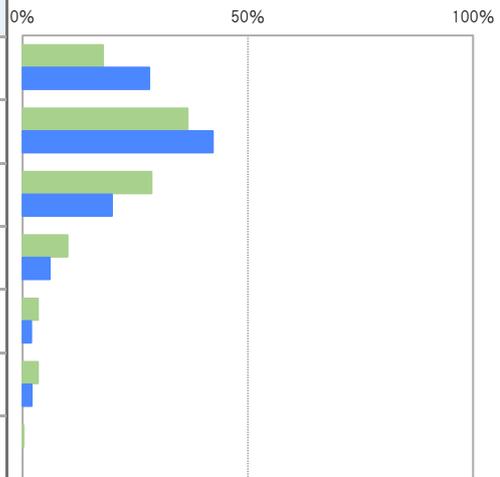
項目	前回	今回	増減
どうしても入学したかった	48.7	48.8	0.1
だめなら他大学でもよかった	22.2	23.6	1.4
本当は他大学に行きたかった	20.2	19.3	▲ 0.9
特に考えていなかった	7.7	7.0	▲ 0.7
その他	0.7	0.4	▲ 0.3
無回答	0.6	0.9	0.3



3-1. 大学の教育への満足度

(%)

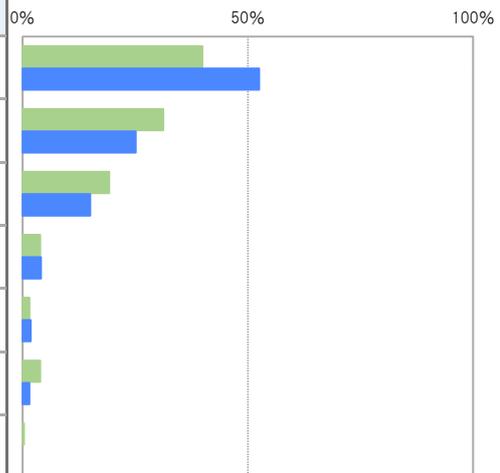
項目	前回	今回	増減
満足 (5点)	17.8	28.1	10.3
やや満足 (4点)	36.6	42.2	5.6
普通 (3点)	28.6	19.8	▲ 8.8
やや不満 (2点)	10.0	6.0	▲ 4.0
不満 (1点)	3.4	1.9	▲ 1.5
まだわからない	3.4	2.0	▲ 1.4
無回答	0.2	0.0	▲ 0.2
平均点	3.57	3.90	0.33



3-2. 大学の研究指導への満足度 ※学部4年生、大学院生のみ回答

(%)

項目	前回	今回	増減
満足 (5点)	39.9	52.5	12.6
やや満足 (4点)	31.2	25.1	▲ 6.1
普通 (3点)	19.2	15.0	▲ 4.2
やや不満 (2点)	3.9	4.1	0.2
不満 (1点)	1.5	1.8	0.3
まだわからない	3.9	1.5	▲ 2.4
無回答	0.3	0.0	▲ 0.3
平均点	4.09	4.24	0.15



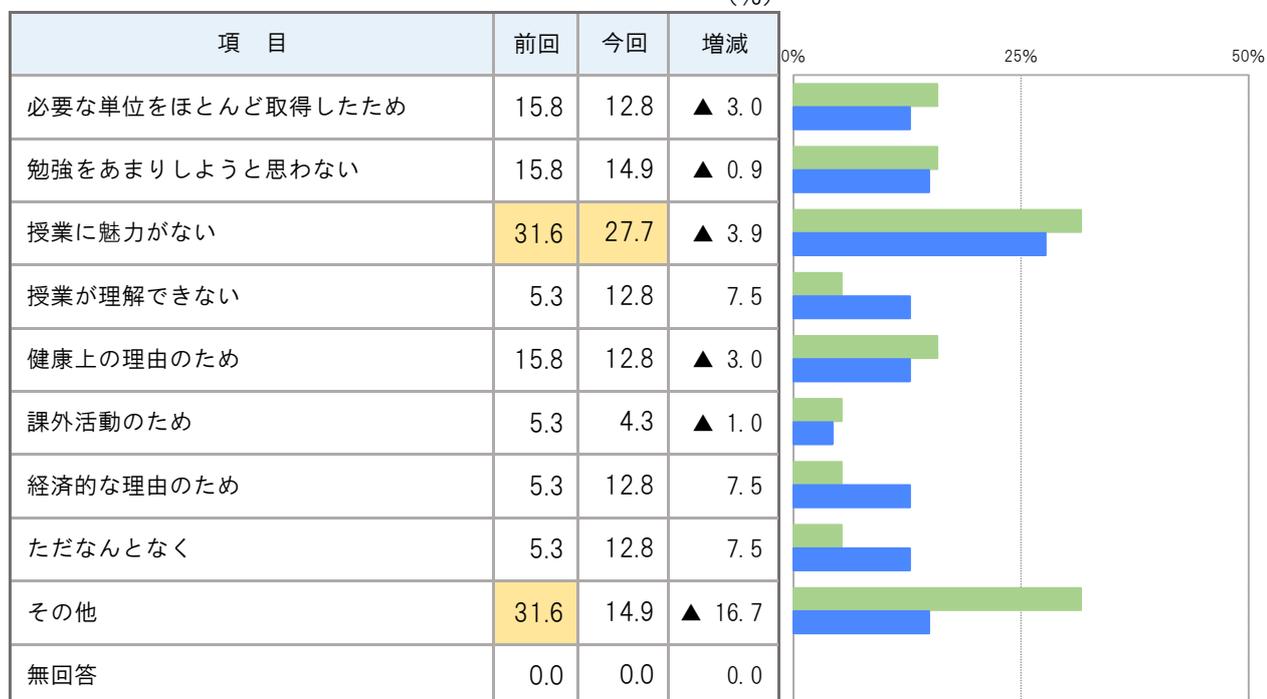
3-3. 授業の出席頻度

(%)



3-4. 授業に欠席する理由〔2つまで回答〕 ※3-3.で①～③を選択した場合のみ回答

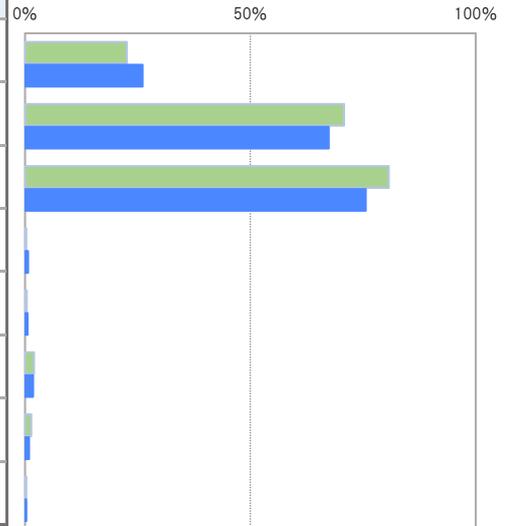
(%)



3-6. 授業内容が理解できなかった場合の対処〔2つまで回答可〕

(%)

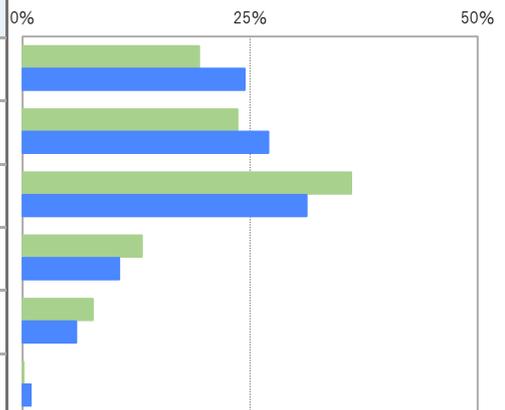
項目	前回	今回	増減
講義中あるいは後で教員に質問する	22.6	26.1	3.5
先輩・友人などに教わる	70.8	67.4	▲ 3.4
参考書・インターネットなどで調べる	80.7	75.6	▲ 5.1
学生支援教員、学年担当に相談する	0.3	0.7	0.4
オフィスアワー制度を利用し、授業担当教員に相談する	0.4	0.6	0.2
指導教員に相談する	2.0	1.8	▲ 0.2
その他	1.4	0.9	▲ 0.5
無回答	0.3	0.3	0.0



4-3. 大学の窓口対応について

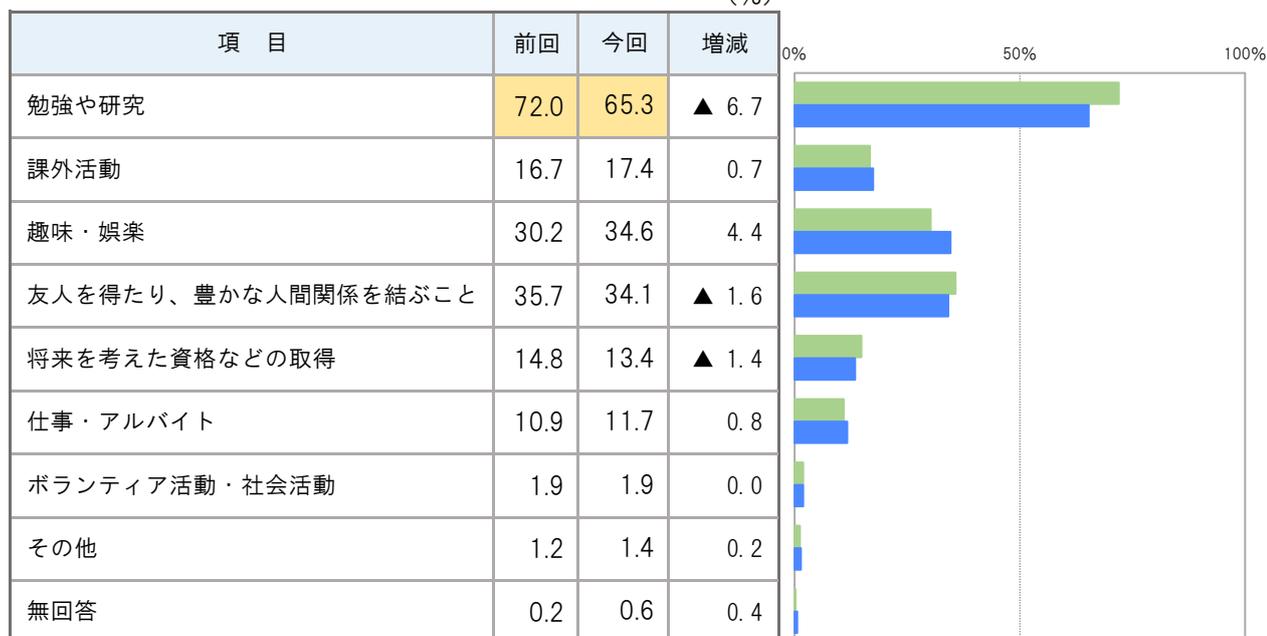
(%)

項目	前回	今回	増減
満足 (5点)	19.4	24.4	5.0
やや満足 (4点)	23.6	27.0	3.4
普通 (3点)	36.1	31.2	▲ 4.9
やや不満 (2点)	13.1	10.6	▲ 2.5
不満 (1点)	7.7	5.9	▲ 1.8
無回答	0.1	0.9	0.8
平均点	3.34	3.54	0.20



4-6. 現在の大学生活で最も大切にしている事〔2つまで回答可〕

(%)



5-1. 回答者が現在住んでいる住居の区分

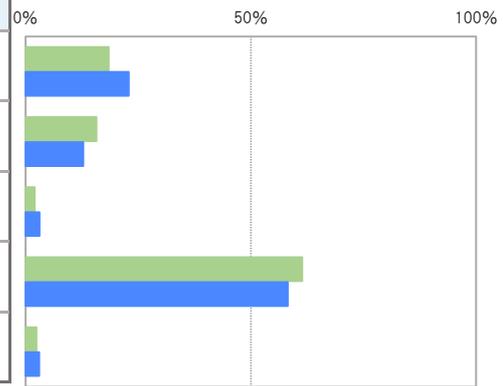
(%)



5-3. 学生寮について

(%)

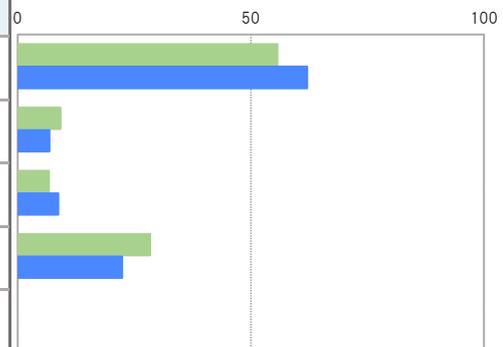
項目	前回	今回	増減
現在入寮していて、可能ならずっと入寮したい	18.4	22.9	4.5
現在自宅または一人暮らしで、学生寮の入寮を希望する	15.7	12.8	▲ 2.9
現在入寮しているが、今後マンション等に転居したい	2.0	3.1	1.1
現在自宅または一人暮らしで今後も今の住居から通学したい	61.4	58.2	▲ 3.2
無回答	2.4	3.0	0.6



6-1. 過去1年間のアルバイト経験

(%)

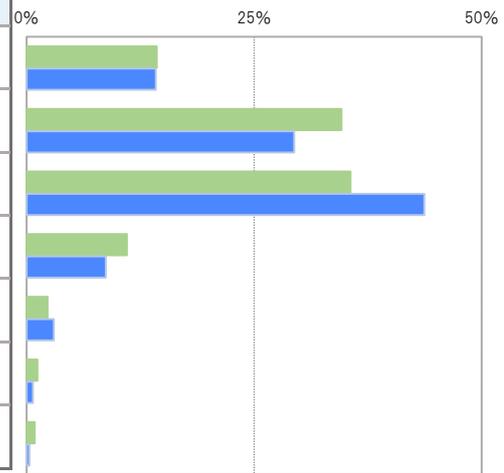
項目	前回	今回	増減
①継続的(1カ月以上)にアルバイトをした	55.7	62.1	6.4
②臨時(1カ月未満)にアルバイトをした	9.2	6.8	▲ 2.4
③継続的アルバイトと臨時アルバイトをどちらもした	6.7	8.7	2.0
④しなかった	28.4	22.4	▲ 6.0
無回答	0.0	0.0	0.0



6-3. 1週間のアルバイト従事時間(往復の時間を含む) ※6-1. で①～③を選択した場合のみ回答

(%)

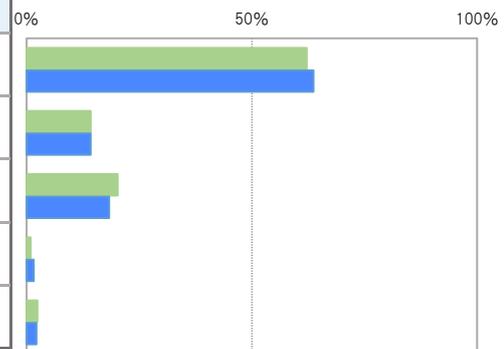
項目	前回	今回	増減
5時間未満	14.3	14.2	▲ 0.1
5～10時間未満	34.6	29.4	▲ 5.2
10～20時間未満	35.6	43.7	▲ 8.1
20～30時間未満	11.0	8.7	▲ 2.3
30～40時間未満	2.3	3.0	▲ 0.7
40時間以上	1.2	0.7	▲ 0.5
無回答	0.9	0.3	▲ 0.6



8-5. 家庭からの仕送り・援助と修学の関係

(%)

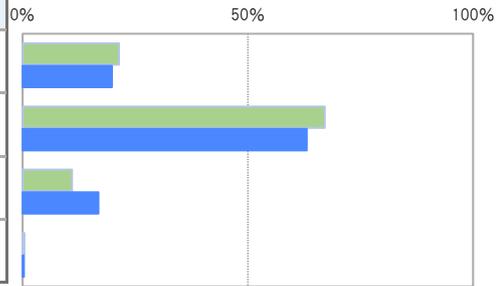
項目	前回	今回	増減
家庭からの仕送り・援助のみで修学可能	62.2	63.7	▲ 1.5
家庭からの仕送り・援助のみでは修学困難	14.2	14.2	0.0
家庭からの仕送り・援助はない	20.2	18.3	▲ 1.9
家庭へ経済的な援助をしている	0.9	1.6	▲ 0.7
無回答	2.4	2.2	▲ 0.2



9-1. 大学で実施している「授業料免除」の申請について

(%)

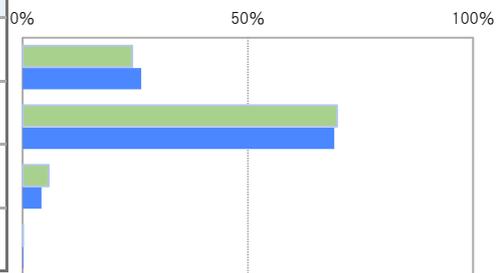
項目	前回	今回	増減
申請したことがある	21.4	19.8	▲ 1.6
知っているが、申請したことがない	67.1	63.1	▲ 4.0
申請制度を知らない	11.0	16.8	▲ 5.8
無回答	0.4	0.3	▲ 0.1



9-2. 日本学生支援機構または他の団体から奨学金について

(%)

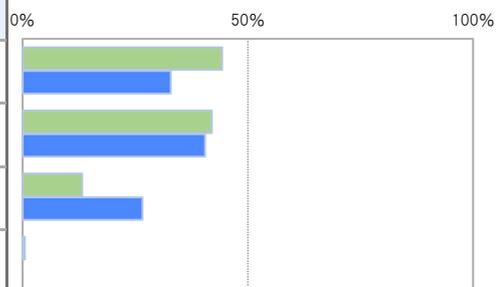
項目	前回	今回	増減
受けている	24.3	26.3	▲ 2.0
受けていない	69.8	69.2	▲ 0.6
過去に受けたことがある	5.8	4.2	▲ 1.6
無回答	0.1	0.2	0.1



9-4. 奨学金の月額

(%)

項目	前回	今回	増減
5万円未満	44.3	32.9	▲ 11.4
5～10万円未満	42.0	40.5	▲ 1.5
10万円以上	13.2	26.6	▲ 13.4
無回答	0.5	0.0	▲ 0.5



10-1. 所属している課外活動団体〔2つまで回答〕

(%)

項目	前回	今回	増減
①大学公認の運動系サークル	35.9	33.3	▲ 2.6
②大学公認の文化系サークル	33.8	32.4	▲ 1.4
③非公認の学内サークル	8.3	13.0	▲ 4.7
④学外のサークル	4.1	6.8	▲ 2.7
⑤加入していない	34.0	33.9	▲ 0.1
無回答	0.0	0.0	0.0

10-2. サークル等加入の理由・動機〔2つまで回答〕 ※10-1. で①～④を選択した場合のみ回答

(%)

項目	前回	今回	増減
友人が欲しいから	49.2	50.6	▲ 1.4
知識・教養・技術を習得するため	21.4	24.4	▲ 3.0
健康増進になるから	15.7	17.8	▲ 2.1
興味があるから	49.2	40.7	▲ 8.5
団体生活・社会性を身につけられるから	6.9	6.4	▲ 0.5
レクリエーションとして	9.6	9.6	0.0
就職に有利になるから	4.7	6.4	▲ 1.7
高校時代からの継続として	13.3	10.9	▲ 2.4
先輩・友人・親に勧められたから	6.2	5.7	▲ 0.5
伝統があるから	0.8	1.0	▲ 0.2
資格を得るため	0.5	0.0	▲ 0.5
その他	2.0	1.0	▲ 1.0
無回答	0.3	0.0	▲ 0.3

11-1. 卒業後に希望する進路

(%)

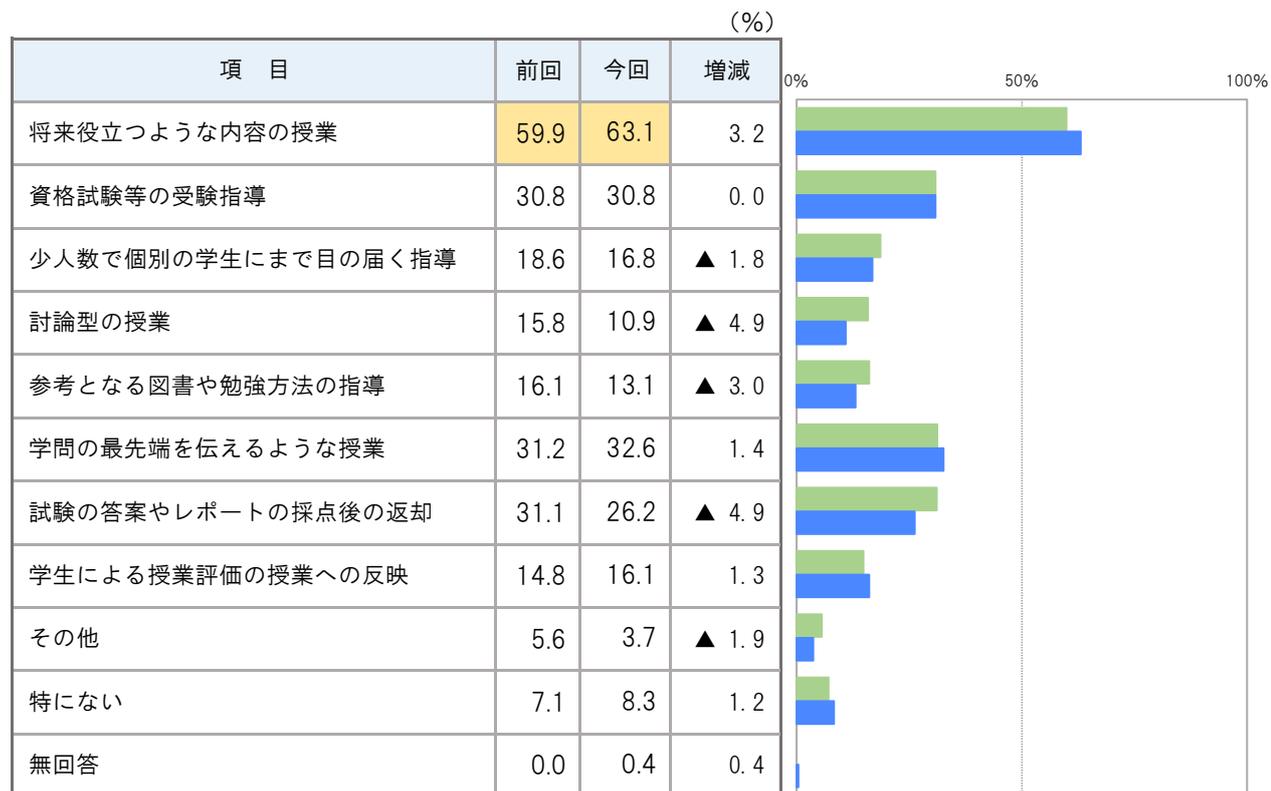
項目	前回	今回	増減
フルタイムの就職・就業	54.2	55.9	1.7
パートタイムの就業（フリーターなど）	0.3	0.3	0.0
専業主婦や専業主夫	0.2	0.2	0.0
進学（大学院・専門学校・留学など）	34.0	34.0	0.0
その他	2.2	1.8	▲ 0.4
まだ考えていない	8.9	7.7	▲ 1.2
無回答	0.1	0.1	0.0

11-3. 就職先を選ぶ際、重視する事〔4つまで回答可〕

(%)



12-1. 大学の授業に対する要望や意見〔3つまで回答可〕



12-2. 大学の教育や学生生活に対する要望や意見〔3つまで回答可〕

(%)

